



設備用パッケージエアコン

空冷式シングルエース 8・10馬力 R410A	
屋外設置一体形ダクトタイプ 上吹出 ヒートポンプ	RDA - SPE2242HT、SPE2802HT
屋外設置一体形ダクトタイプ 横吹出 ヒートポンプ	RDA - SPE2242EHT、SPE2802EHT

1. 仕様表	3
2. 外形図	4
3. 電気配線図	5
4. 使用範囲	7
5. 能力・入力補正	7
6. 能力・入力変化特性	8
7. 送風機特性	10
8. 送風機回転数の調整	
8-1. 標準電動機プーリ、送風機プーリ、 Vベルト一覧表	11
8-2. アジャスタブルプーリによる回転数の変更	11
8-3. プーリの芯出し	12
8-4. ベルトの張り調整	12
8-5. モータ交換および取付方法	12
9. 内部構造図	13
10. 冷媒配管系統図	14



11. 電気配線仕様	
11-1. 電気配線の注意	14
11-2. 電気・操作回路の配線	15
12. 電気配線要領	
12-1. 電源の接続	15
12-2. 接地線接続	15
13. 部品定格	16
14. 騒音データ	17
15. 荷重分布・重心位置	18
16. 振動値	18
17. 据付	
17-1. 搬入	19
17-2. 据付場所	19
17-3. ユニットの据付	21
17-4. ドレン配管(室内機側)	21
17-5. ダクト接続(室内機側)	22
18. 運転制御の概要	
18-1. リモコン(別売部品)操作方法	23
18-2. 室内側制御概要	25
18-3. 室外側制御概要	28
18-4. 機能切換設定方法	31
18-5. 応用機能	32
18-6. 警報表示の内容	33
19. 別売部品	
19-1. 別売部品一覧	35
19-2. ワイヤードリモコン	36
19-3. サブリモコン	37
19-4. 吹出フランジ	38
19-5. 吸込フランジ	39
試運転・保守要領	40
TCC-LINK アダプタ取付説明書	45

仕様表 空冷式シングルエース 8・10馬力

1. 仕様表



項目		形名		RDA-SPE2242HT	RDA-SPE2242EHT	RDA-SPE2802HT	RDA-SPE2802EHT
				上吹出	横吹出	上吹出	横吹出
冷房能力	(注1)(kW)	20.0(22.4)				25.0(28.0)	
暖房能力	(注2)(kW)	22.4(25.0)				28.0(31.5)	
冷房低温能力	(注3)(kW)	25.0				25.0	
外觀	塗装色	シルキーシェード(1Y8.5/0.5)					
	外形寸法	高さ(mm)	1800				
		幅(mm)	1800				
	奥行(mm)	756					
製品	質量(kg)	360				370	
電気特性	電源	(注2)	三相 200V50/60Hz				
	冷房(注1)	運転電流(A)	17.73/17.85			27.35/27.75	
		消費電力(kW)	5.65/5.75			8.33/8.46	
		力率(%)	92/93			88/88	
	暖房(注2)	運転電流(A)	18.75/18.86			26.53/26.94	
		消費電力(kW)	6.04/6.14			8.27/8.40	
		力率(%)	93/94			90/90	
	暖房低温(注3)	運転電流(A)	32.41/32.72			39.76/40.17	
		消費電力(kW)	10.44/10.54			12.81/12.94	
		力率(%)	93/93			93/93	
	始動電流(A)	19.3/19.3			43.0/37.0		
圧縮機	形式	全密閉ロータリ式					
	台数	2					
	電動機(kW)・(極数)	1.8(4P)+1.8(4P)				2.7(4P)+2.7(4P)	
	始動方式	インバータ					
	クランクケースヒータ(W)	26+26					
空気熱交換器		プレートフィンチューブ式					
冷媒制御		電子制御弁					
冷媒	種類	R410A					
	出荷時封入量(kg)	5.5					
冷凍機油	種類	Ze-GLES RB68AF					
	充填量(注4)(L)	1.9×2					
室外送風装置	送風機	プロペラファン(直結駆動)					
	風量(m³/min)	200					
	電動機(kW)	0.6					
室内送風装置	送風機	シロッコファン(ベルト駆動)					
	台数	1					
	標準電動機(kW)・(極数)	0.75(4P)				1.5(4P)	
	標準回転数(rpm)	789/952				853/1030	
	標準風量(m³/min)	65				87	
風量	標準機外静圧(Pa)	143/262		71/186		43/213	
	最高回転数時機外静圧(Pa)	531		429		452	
	(電動機)	(1.5)		(1.5)		(2.2)	
	風量限界(m³/min)	56~75				75~100	
エアフィルタ		現地手配					
運転調整装置		リモコンスイッチ(別売部品)					
容量制御	(%)	0.30~100					
ドレン口(室内機)		フレキシブルホース φ38.5(外径)					
騒音値	(注5)(dBA)	58.3/58.3 (測定位置:正面1m、高さ1m)				59.5/59.5 (測定位置:正面1m、高さ1m)	
保護装置		高圧スイッチ、吐出温度センサ、過電流センサ、圧縮機サーモ					
使用範囲	冷房	室外乾球温度(°C)	-5~43				
		室内湿球温度(°C)	15~24				
	暖房	室外湿球温度(°C)	-15~15				
		室内乾球温度(°C)	15~28				
電源設計	手元スイッチ(A)	60					
	ヒューズ(A)	60					
(注6)	電源配線	20m以下の場合	燃線 14mm ²				
		50m以下の場合	燃線 38mm ²				
	リモコン配線	500mまで VCTF 0.5mm ² ~2.0mm ² 2芯					
法定冷凍能力	(ト)	4.0				4.9	
高圧ガス保安法手続区分		不要					

(注1) 冷房能力および電気特性は、右記JIS条件時の値です。 室内側入口空気温度27°CDB/19°CWB、外気温度35°CDB

カック内は最大能力を示します。

(注2) 暖房能力および電気特性は、右記JIS条件時の値です。 室内側入口空気温度20°CDB、外気温度7°CDB/6°CWB

カック内は最大能力を示します。

(注3) 暖房低温能力および電気特性は、下記JIS条件時で、1時間運転した場合の平均値です。

室内側入口空気温度20°CDB、外気温度2°CDB/1°CWB

(注4) 電圧変動があった場合でも、±10%を超えないようにしてください。

(注5) 騒音値は反射音の少ない場所で測定したものです。

実際の据付状態では周囲の騒音や反射の影響を受け、表示値より大きくなります。

(注6) 室内送風装置の電動機が標準の場合を示します。

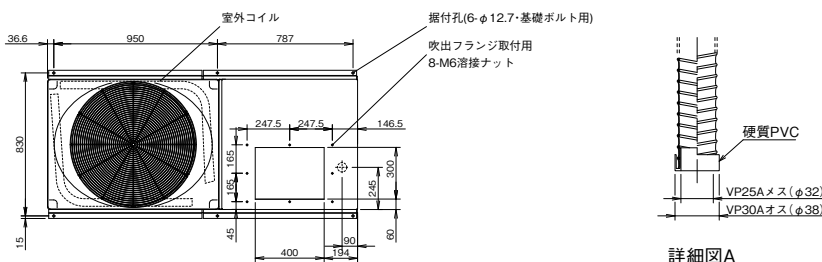
(注7) 室内側送風機の入力(電流)はRDA-SPE2241(E)HT:0.47kW(2.6A)/0.57kW(2.8A)、

RDA-SPE2801(E)HT:0.90kW(5.8A)/1.03kW(6.2A)になります。

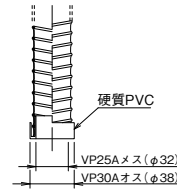
2. 外形図



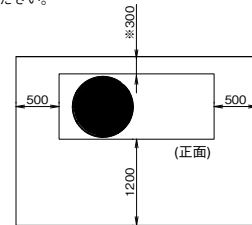
RDA-SPE2242/2802HT(上吹出仕様)



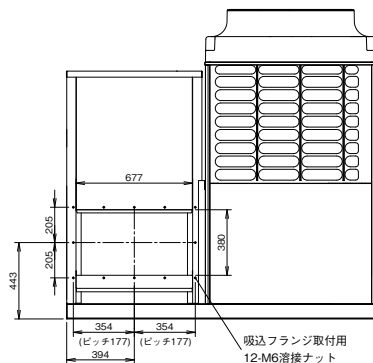
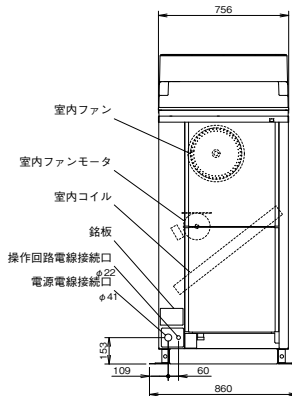
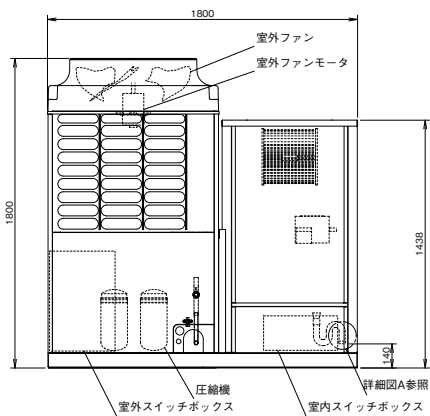
1. 室内側ドレン配管はユニット内でトラップを取っていますのでユニット外ではトラップを取らないでください。
2. ユニットの上部には吐出空気用として2.0m以上のスペースを確保してください。
3. ユニットの周囲には外気取入れ及びサービス用として下図に示すスペースを確保してください。
4. ユニットの囲む障害物の高さは、ユニット下端より0.8m以下にしてください。



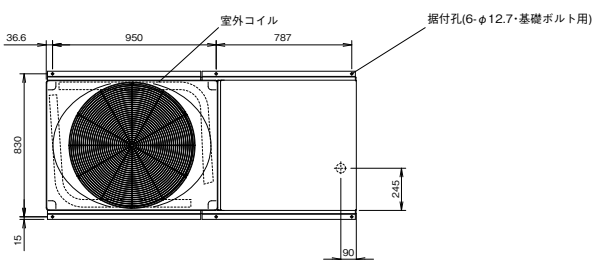
詳細図A
室内側ドレン配管接続口



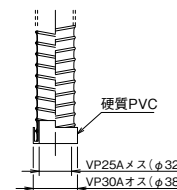
※別売クリーンコンバータ(TCB-HCR1)を取り付ける場合は、室外機背面のサービススペースを500mm以上確保してください。



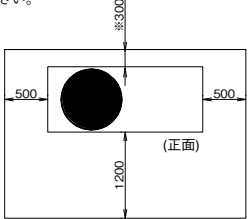
RDA-SPE2242/2802EHT(横吹出仕様)



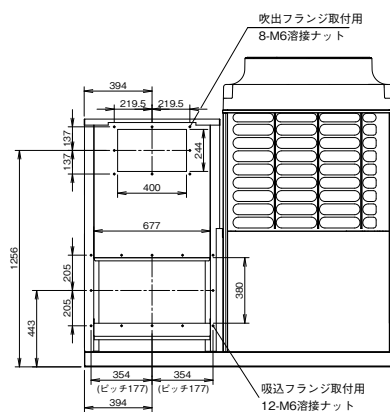
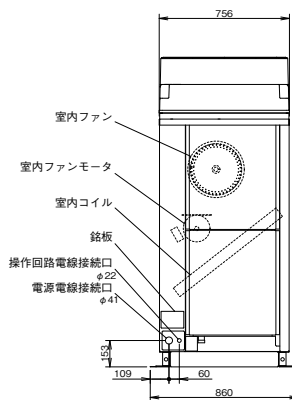
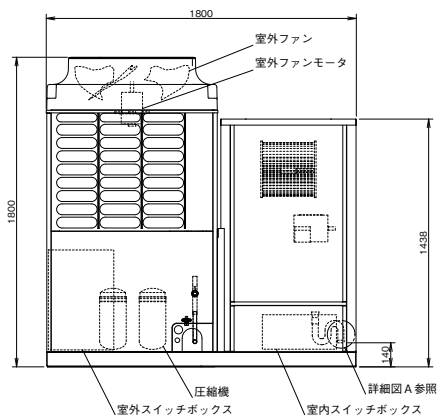
1. 室内側ドレン配管はユニット内でトラップを取っていますのでユニット外ではトラップを取らないでください。
2. ユニットの上部には吐出空気用として2.0m以上のスペースを確保してください。
3. ユニットの周囲には外気取入れ及びサービス用として下図に示すスペースを確保してください。
4. ユニットの囲む障害物の高さは、ユニット下端より0.8m以下にしてください。



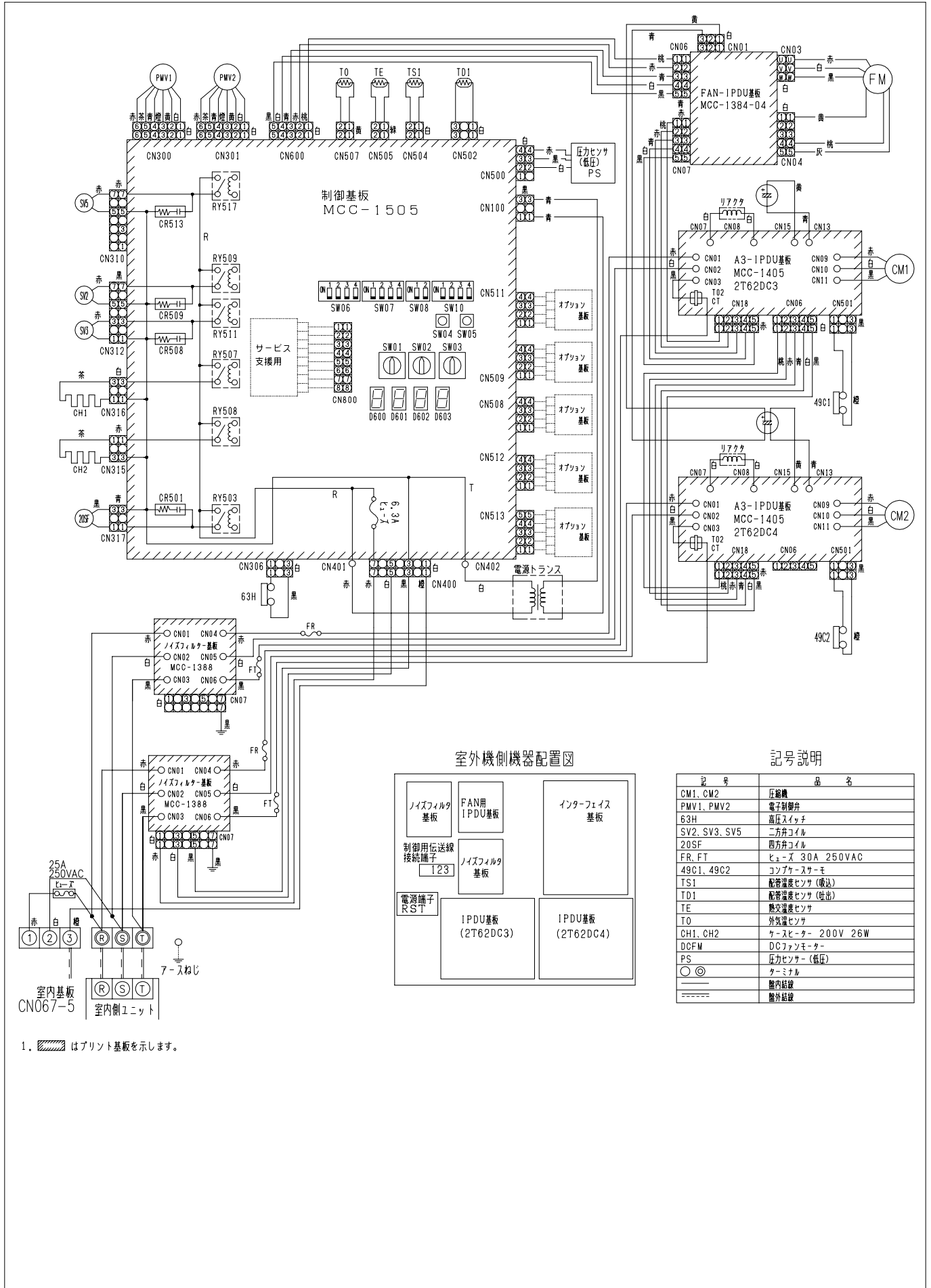
詳細図A
室内側ドレン配管接続口



※別売クリーンコンバータ(TCB-HCR1)を取り付ける場合は、室外機背面のサービススペースを500mm以上確保してください。



3. 電気配線図



3. 電気配線図

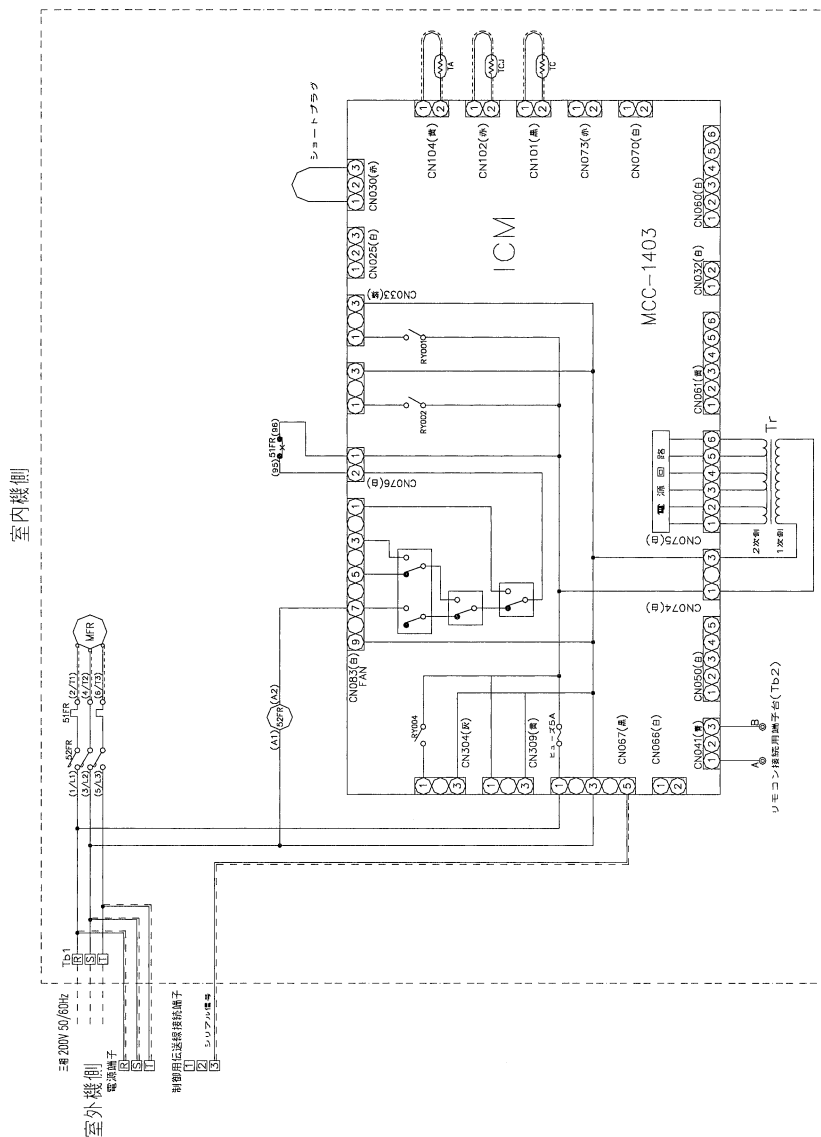
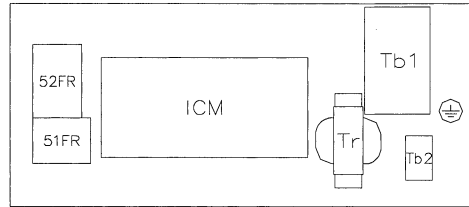


RDA-SPE2242/2802(E)HT室内機側

記号説明

記号	名称
51FR	室内ファンモータ用オーバーロードリレー
52FR	室内ファンモータ用電磁接触器
CN	コネクタ
ICM	室内機制御基板
MFR	室内ファンモータ
TA	サーミスタセンサ(室内機吸込み空気温度)
TCJ	サーミスタセンサ(室内機コイルガス側)
TC	サーミスタセンサ(室内機コイル液側)
Tb	ターミナルブロック
Tr	トランス
○ ◎	ターミナル
—	壁内結線
----	壁外結線
---	現場結線

室内機側機器配置図



4. 使用範囲



冷房	室内コイル入口湿球温度	15℃～24℃ W.B.
	外気温度	-5℃～43℃ D.B.
暖房	室内コイル入口乾球温度	15℃～28℃ D.B.
	外気温度	-15℃～15℃ W.B.
電源電圧		定格 ±10%以内
相間バランス		電圧 ±2%以内 電流 ±10%以内

能力・入力補正 空冷式シングルエース 8・10馬力

5. 能力・入力補正

RDA-SPE2242(E)HT

風量 (m ³ /min)			最小	標準	最大
			57	65	75
バイパスファクタ			0.14	0.15	0.16
冷房	補正係数	能力	0.97	1.00	1.01
		入力	0.99	1.00	1.01
暖房	補正係数	能力	0.99	1.00	1.01
		入力	1.07	1.00	0.98

RDA-SPE2802(E)HT

風量 (m ³ /min)			最小	標準	最大
			75	87	100
バイパスファクタ			0.16	0.17	0.19
冷房	補正係数	能力	0.98	1.00	1.02
		入力	0.99	1.00	1.01
暖房	補正係数	能力	0.99	1.00	1.01
		入力	1.05	1.00	0.96

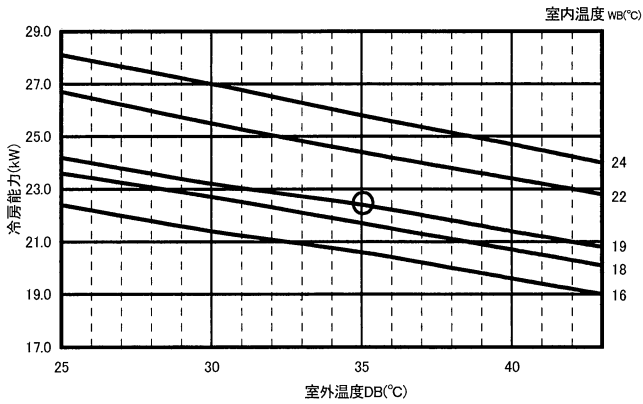
6. 能力・入力変化特性



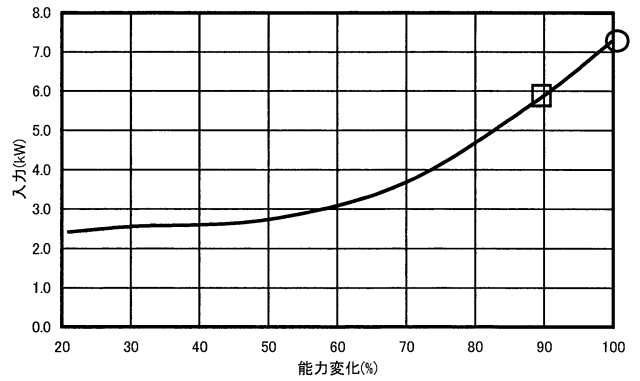
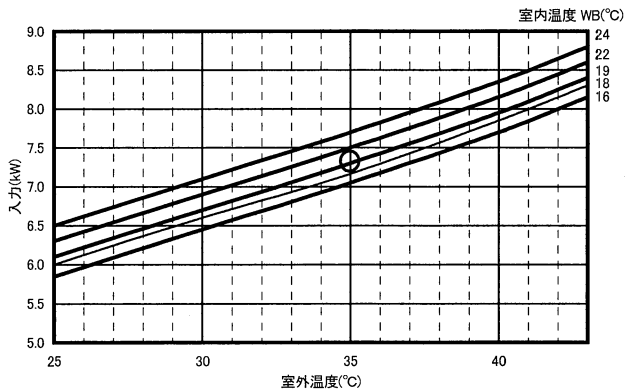
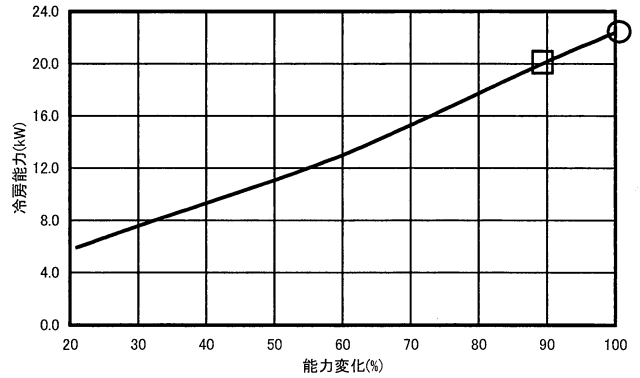
RDA-SPE2242(E)HT

【冷房】

外気温度変化時の能力・入力変化特性

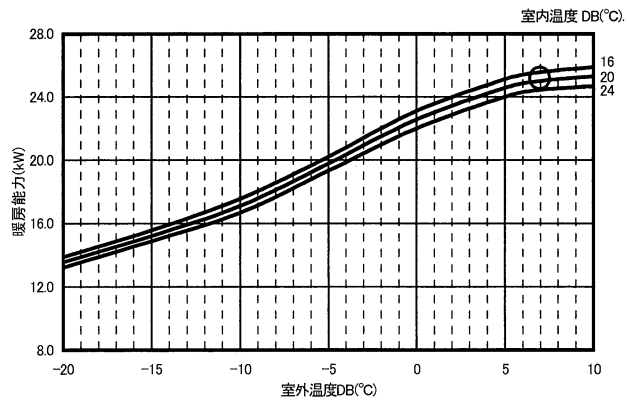


能力変化時の能力変化特性 (JIS 標準条件)

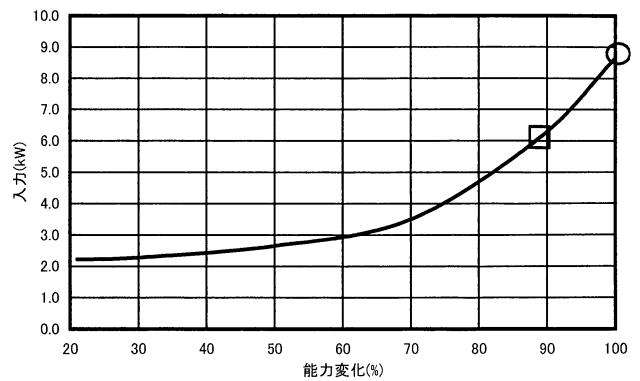
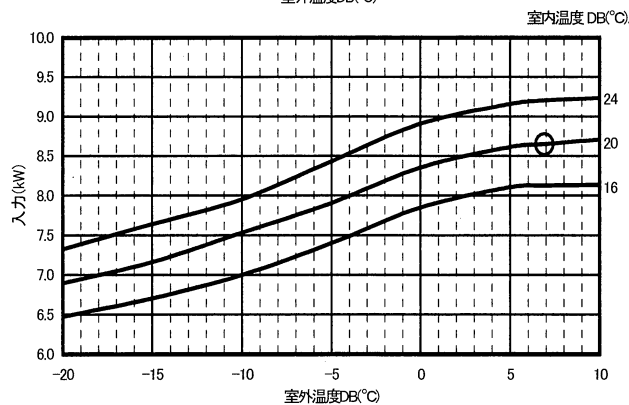
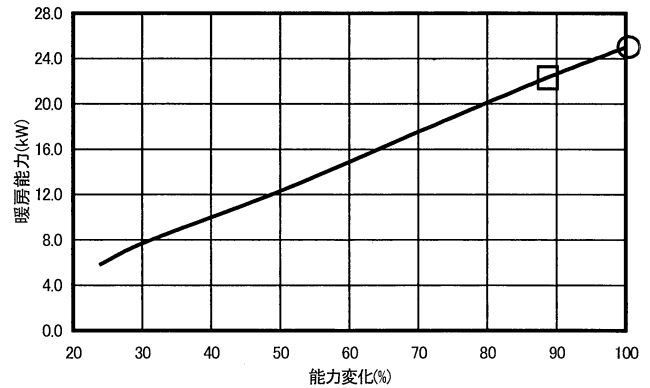


【暖房】

外気温度変化時の能力・入力変化特性



能力変化時の能力変化



注. 暖房時の能力特性は着霜時 (除霜運転含む) の能力低下を含みません。
○は最大点、□は定格点を示します。

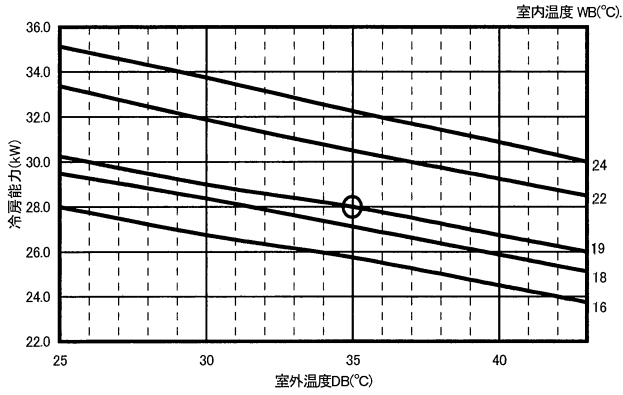
6. 能力・入力変化特性



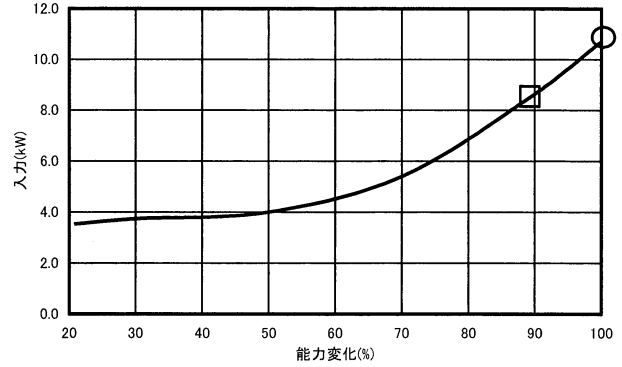
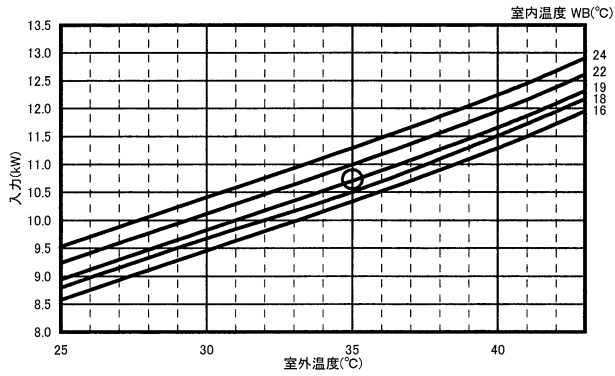
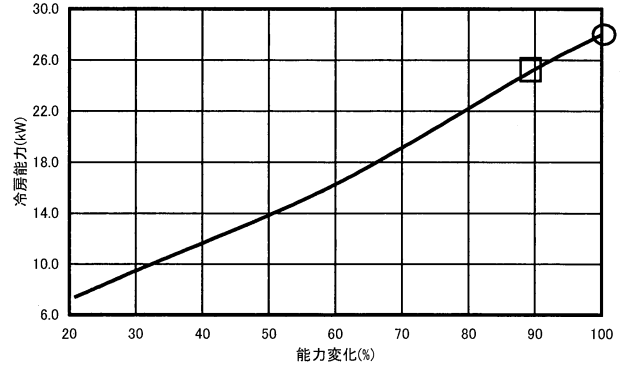
RDA-SPE2802(E)HT

【冷房】

外気温度変化時の能力・入力変化特性

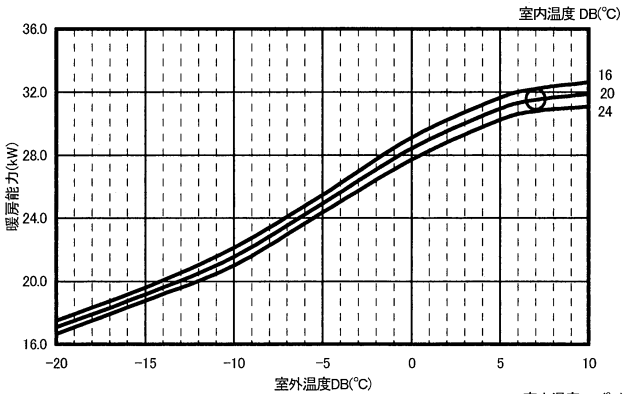


能力変化時の能力変化特性(JIS 標準条件)

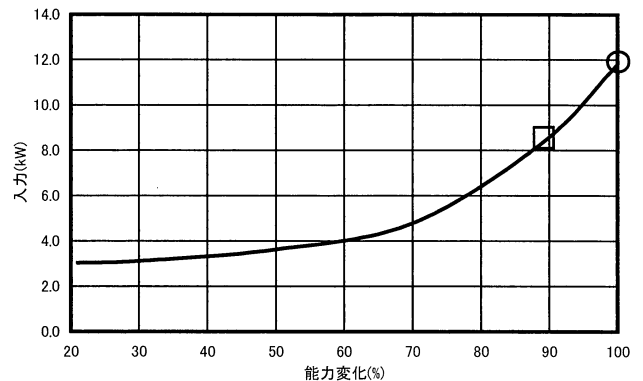
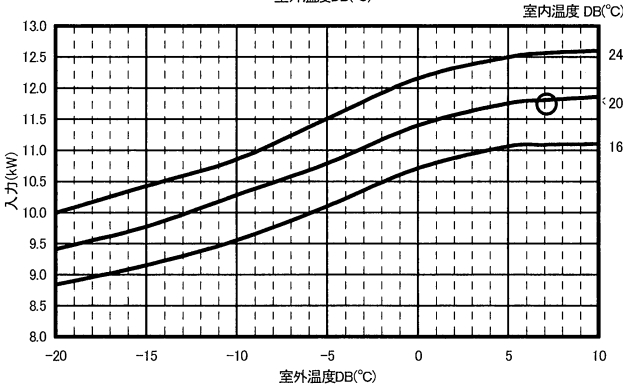
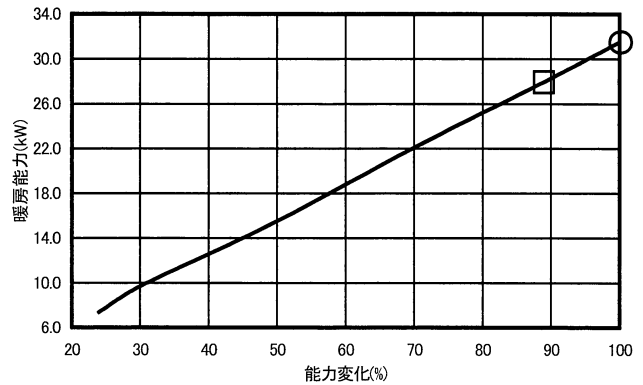


【暖房】

外気温度変化時の能力・入力変化特性



能力変化時の能力変化

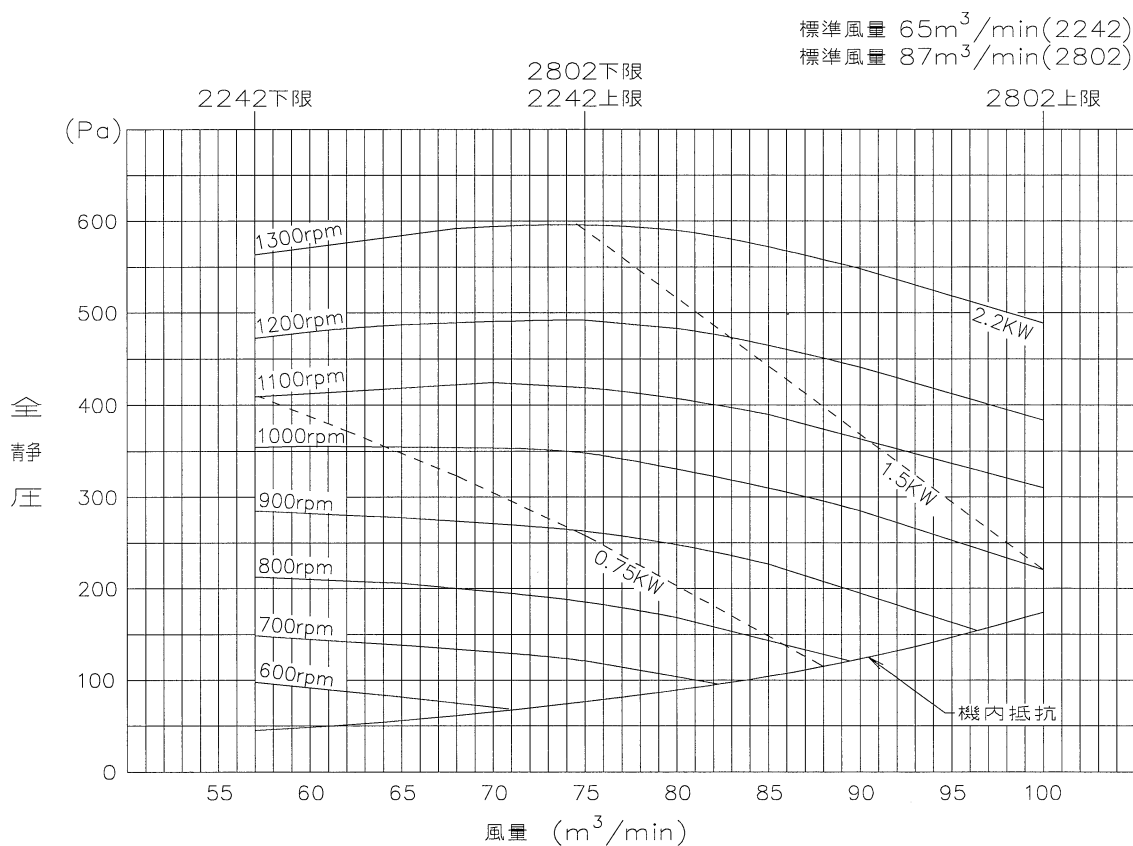


注. 暖房時の能力特性は着霜時(除霜運転含む)の能力低下を含みません。
○は最大点、□は定格点を示します。

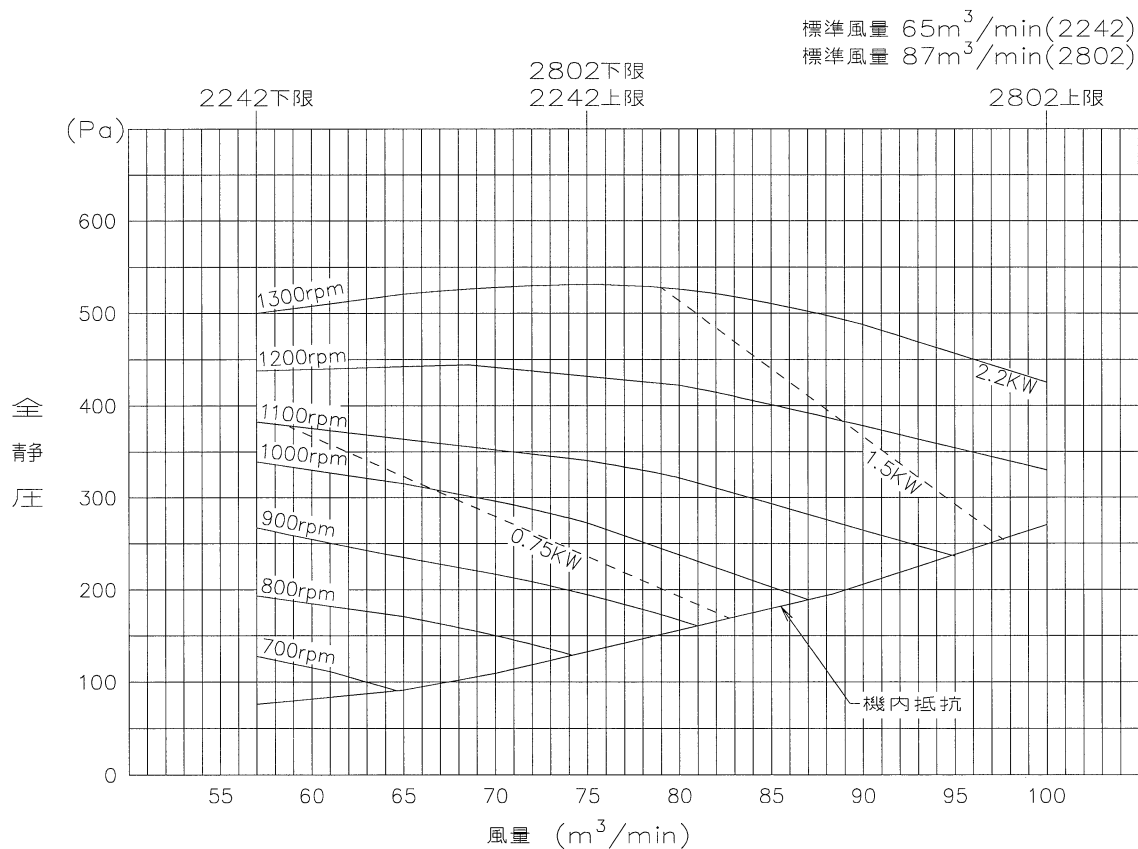
7. 送風機特性



RDA-SPE2242HT/2802HT (上吹出仕様)



RDA-SPE2242EHT/2802EHT (横吹出仕様)



8. 送風機回転数の調整



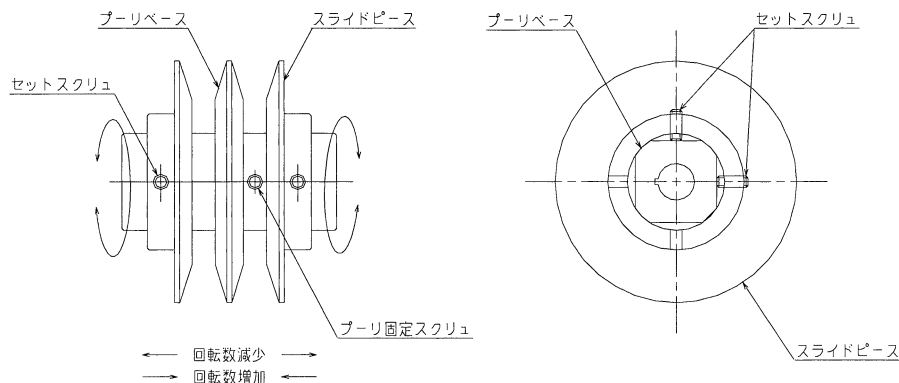
8-1. 標準電動機プーリ、送風機プーリ、Vベルト一覧表

機種 RDA-	風量範囲 m ³ /min			出荷時回転数(rpm)		アジャスタブル 範囲	全閉からの 戻し	標準機外静圧 (Pa)	機内抵抗 (Pa)	ファンモータ (kW)
	最小	標準	最大	50Hz	60Hz					
SPE2242HT	57	65	75	789	952	106.7~130	3	143/262	56	0.75
SPE2242EHT	57	65	75	789	952	106.7~130	3	71/186	111	0.75
SPE2802HT	75	87	100	853	1030	106.7~130	2-1/2	43/213	91	1.5
SPE2802EHT	75	87	100	1004	1212	106.7~130	2-1/2	4/216	189	1.5

機種 RDA-	モータプーリ	ファンプーリ	V-BELT	軸間距離	たわみ	たわみ荷重最小値	たわみ荷重最大値 Td(kg/本)	
	ピッチ径(mm)	ピッチ径(mm)	本数	(mm)	(δ mm)	Td(kg/本)	ベルト交換時	張り直し時
SPE2242HT	115.3	212	B56 × 1	456 ± 18	7.0	0.6	0.9	0.7
SPE2242EHT	115.3	212	B50 × 1	379 ± 17	6.0	0.6	0.9	0.8
SPE2802HT	117.7	200	B56 × 1	463 ± 18	7.5	1.0	1.5	1.3
SPE2802EHT	117.7	170	B48 × 1	385 ± 17	6.3	1.0	1.5	1.3

8-2. アジャスタブルプーリによる回転数の変更

モータプーリはアジャスタブルプーリを使用しています。スライドピースのセットスクリューを六角レンチで緩め、スライドピースを回転させることによりピッチ径が変化します。スライドピースの回転量とピッチ径、およびスライドピースの回転量と送風機の回転数の関係は下表を参照してください。調整は必ず全閉の状態から行なってください。調整後は、必ずセットスクリューでスライドピースを固定してください。また、機外静圧と送風機の回転数の関係は「7. 送風機特性」を参照してください。



機種 RDA-	周波数 (Hz)	送風機回転数 (r.p.m) (参考値)									
		モータプーリのスライドピース回転数(回転)									
		0	1/2	1	1-1/2	2	2-1/2	3	3-1/2	4	4-1/4
SPE2242HT	50	889	872	856	839	822	805	789 *	772	755	746
	60	1073	1052	1033	1012	992	972	952 *	931	911	901
SPE2242EHT	50	889	872	856	839	822	805	789 *	772	755	746
	60	1073	1052	1033	1012	992	972	952 *	931	911	901
SPE2802HT	50	943	924	907	889	871	853 *	836	818	800	782
	60	1138	1116	1095	1073	1052	1030 *	1009	987	966	944
SPE2802EHT	50	1109	1088	1067	1046	1025	1004 *	983	962	942	920
	60	1338	1313	1288	1262	1237	1212 *	1187	1161	1136	1111

- 注 1. スライドピース回転数"0"とは、プーリベースとスライドピースが密着した場合の位置を示します。
- 注 2. *印は、工場出荷時のスライドピース位置と標準セット回転数を示します。
- 注 3. ファンの回転数は運転状況によって変わります。(±20r.p.m程度)
- 注 4. モータプーリのスライドピースは1/4回転ごとに調整可能です。

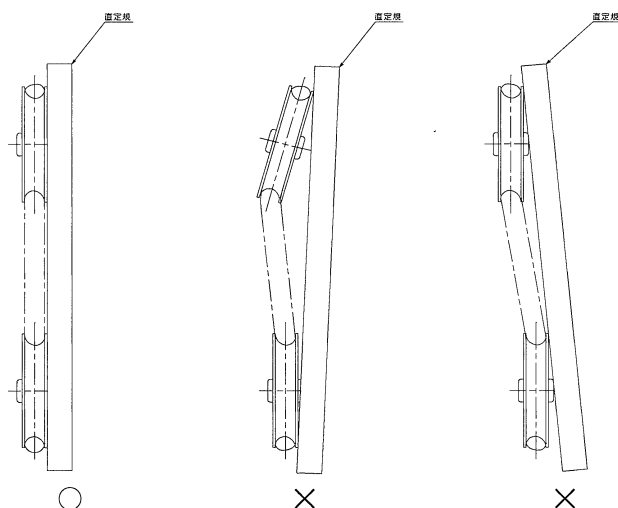
8. 送風機回転数の調整



8-3. プーリの芯出し

下図を参照ください。モータープーリとファンプーリは一直線上に配置されなければなりません。2つのプーリの側面に直定規を当てれば容易に芯出しができます。プーリの芯出しが不完全ですと（図の×印）、Vベルトの寿命が著しく減少したり、余分な動力が消費されます。

プーリの芯出し

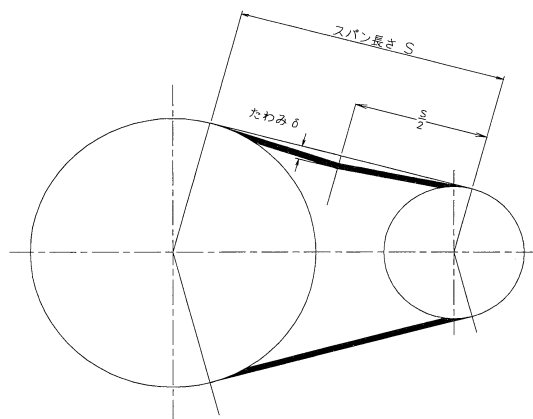


8-4. ベルトの張り調整

下図を参照ください。ベルトに張りを与え、2～3分運転してからスパンの中央部に荷重をかけ、 δ (mm) たわませた時の荷重 T_d (kg) が7-1. 項に示す表の最小値以上、最大値以下となるようにベルトの張りを調整してください。ベルトの張りが適正でないと、送風量の低下や異常振動の原因となります。

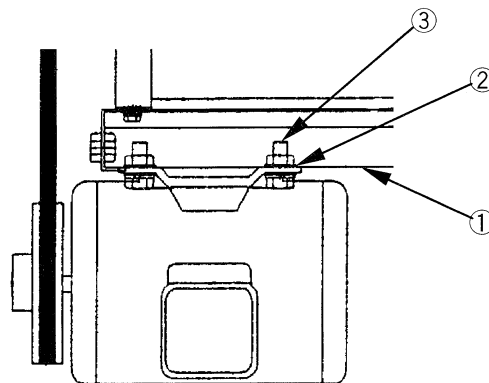
またベルトには伸びが発生するので定期的に調整を行ってください。納入後は初期伸びが発生しますので据付後1ヶ月で再度張りの調整を行ってください。

ベルトの張り



8-5. モータの交換および取付方法

- (1) モータを交換する時は、Vベルト、プーリを取外します。
- (2) ③の固定用ボルト（4ヶ）を取りはずして、ベースよりモータを取外します。
- (3) モータを交換して仮取付してください。プーリ、Vベルトを取付けて、②のスロット孔でモータの位置をスライドさせることができますので、これにより芯出し、張りの調整を行ってください。
- (4) モータ固定ボルトを締めて、モータ位置を固定してください。

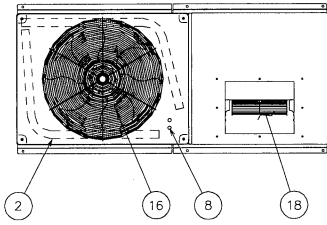


- ① モータ取付けベース
- ② モータ取付スロット孔
- ③ モータ固定用ボルト

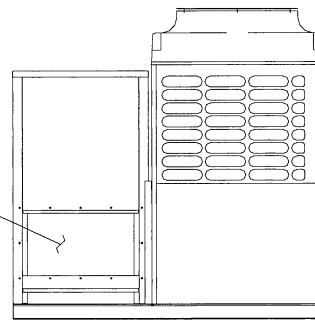
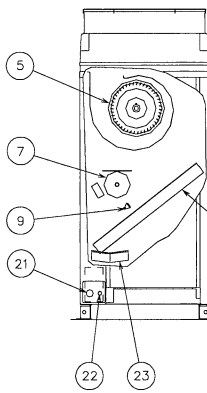
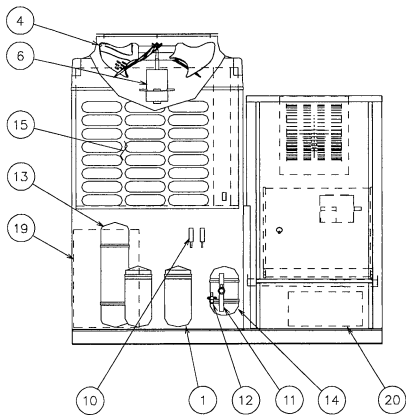
9. 内部構造図



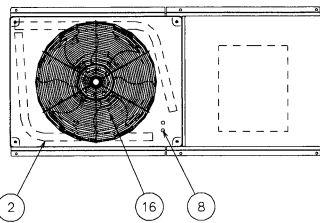
RDA-SPE2242HT/2802HT



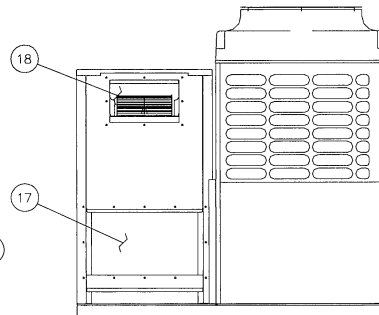
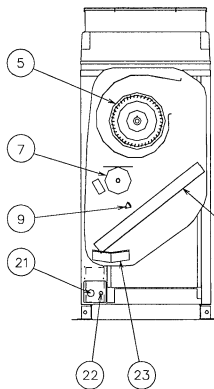
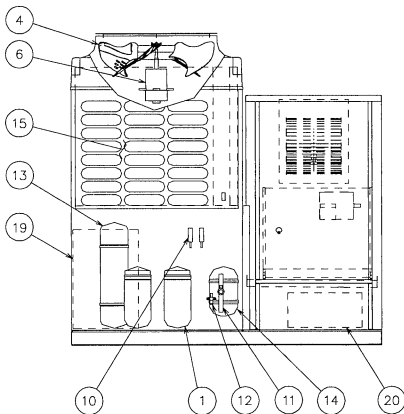
項目	部品名
1	圧縮機
2	室外側熱交換器
3	室内側熱交換器
4	室外側送風機
5	室内側送風機
6	室外側送風機用電動機
7	室内側送風機用電動機
8	室外側ディストリビュータ
9	室内側ディストリビュータ
10	電子膨張弁
11	冷媒ガスサービバルブ
12	冷媒液サービバルブ
13	アキュムレータ
14	オイルセパレータ
15	室外側空気吸込口
16	室外側空気吹出口
17	室内側空気吸込口
18	室内側空気吹出口
19	室外側スイッチボックス
20	室内側スイッチボックス
21	主電源回路接続口
22	操作回路接続口
23	ドレンパン



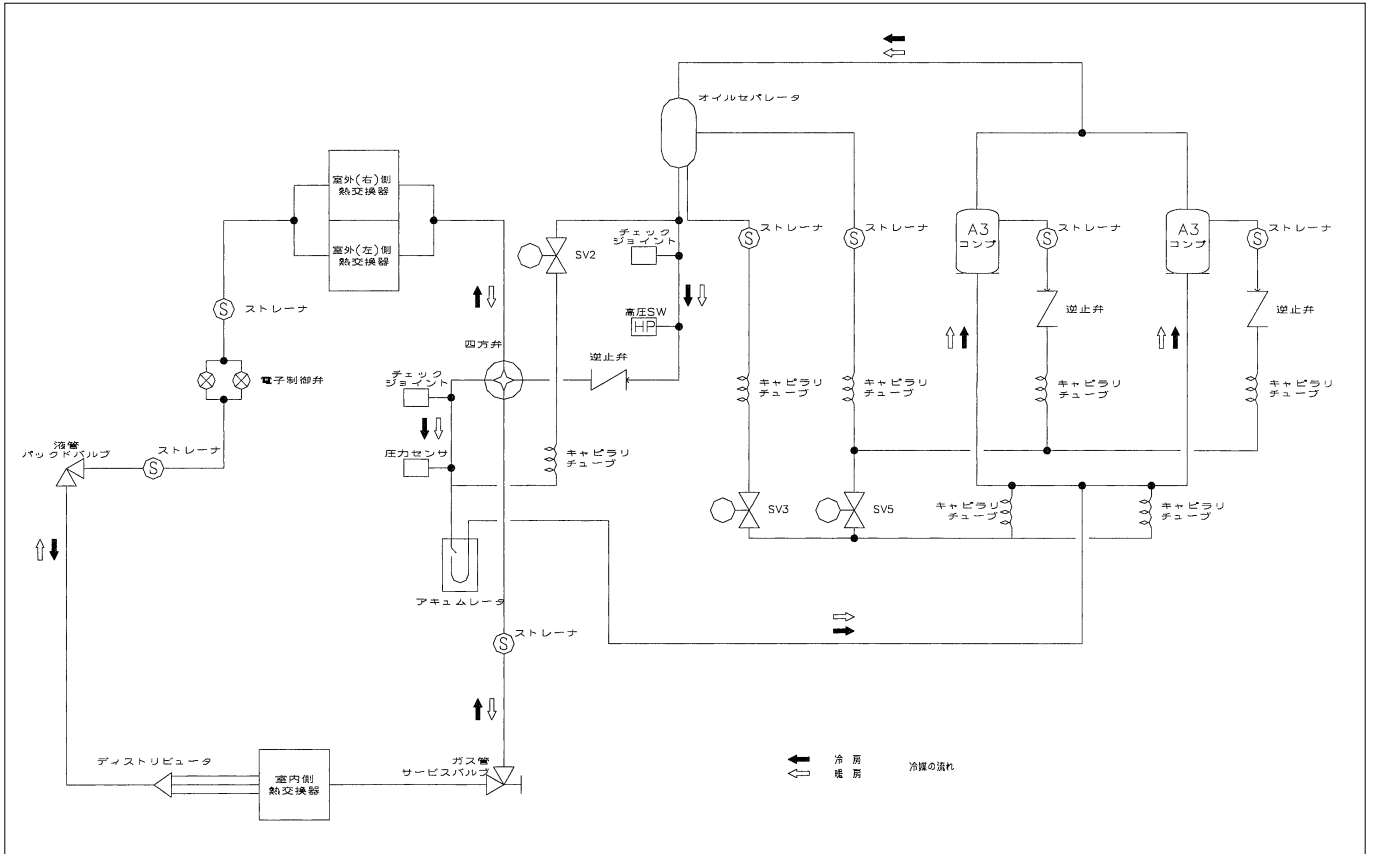
RDA-SPE2242EHT/2802EHT



項目	部品名
1	圧縮機
2	室外側熱交換器
3	室内側熱交換器
4	室外側送風機
5	室内側送風機
6	室外側送風機用電動機
7	室内側送風機用電動機
8	室外側ディストリビュータ
9	室内側ディストリビュータ
10	電子膨張弁
11	冷媒ガスサービバルブ
12	冷媒液サービバルブ
13	アキュムレータ
14	オイルセパレータ
15	室外側空気吸込口
16	室外側空気吹出口
17	室内側空気吸込口
18	室内側空気吹出口
19	室外側スイッチボックス
20	室内側スイッチボックス
21	主電源回路接続口
22	操作回路接続口
23	ドレンパン



10. 冷媒配管系統図



11. 電気配線仕様



11-1. 電気配線の注意

- ① 弊社提出の仕様表・外形図・配線図を参照してください。
- ② 電源電圧は定格電圧の±10%以内、相間バランス±2%以内を守ってください。
不適正な電圧で運転しますと故障の原因となり、保証の対象とはなりません。
- ③ 配線は必ず所轄の電力会社の諸規定および電気設備技術基準・内線規定に従ってください。
- ④ アース配線は必ず行なってください。(アースターミナルはスイッチボックス内にあります)
- ⑤ 配線は必ず所轄の電力会社の諸規定及び、電気設備技術基準・内線規定に従ってください。



11. 電気配線仕様

11-2. 電気・操作回路の配線

- ① ユニットの電源スイッチとヒューズボックスは、サービス中に誤ってスイッチを入れられないように、ユニットから見える位置に設置してください。
- ② 電気特性表の電源電線太さは、金属電線管で同一管内に収める電線3本以下、電圧降下2%の場合を示します。
- ③ 電源電線の太さ、スイッチ容量、ヒューズ容量等は、下表および内線規定を参考にして決定してください。配線距離が長くなる場合は、電圧降下が2%以内になるように、電源電線太さを決定してください。
- ④ スイッチボックスへの渡り配線サイズは、下表にしたがってください。
- ⑤ 通常はユニットのリモコンの温度センサーが温度を感知していますが、ユニットの室内機側の温度を感知させることもできます。詳しくは「18-4. 機能切換設定方法」を参照ください。

ユニット形名		RDA-SPE2242(E)HT	RDA-SPE2802(E)HT	
電	手元スイッチ (A)	60	60	
	ヒューズ (A)	60	60	
源	電源トランス容量 (kVA)	9.86/9.96	13.8/14.0	
	漏遮断器	容量 (A)	60	60
		感度電流 (mA)	100	100
設	動作時間	0.1sec 以下	0.1sec 以下	
計	電源配線	20m以下の場合	撚線 14mm ²	撚線 14mm ²
		50m以下の場合	撚線 38mm ²	撚線 38mm ²
アース線太さ		撚線 3.5mm ²	撚線 3.5mm ²	
操作回路：スイッチボックス - リモコン間		(500mまで) VCTF 0.5~2.0 mm ²		

注. 電源設計は別売部品を取付けない場合を示します。

電気配線要領

空冷式シングルエース 8・10馬力

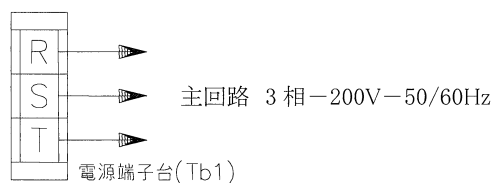
12. 電気配線要領

運転に必要なユニット内の電気配線は全ておこなわれていますので、電源・接地配線するだけでユニットを運転することができます。

12-1. 電源の接続

電源電線の太さ、電線管太さ、スイッチ容量、ヒューズ容量は「11. 電気配線仕様」および内線規定を参考にして決定してください。また、配線距離が長くなる場合は電圧降下を考慮してください。

電源引込み線はユニット側面の電気配線穴を通して、室内機側スイッチボックス内の電源用ターミナル (Tb1) に接続してください。



12-2. 接地線接続

コントロールボックス内にあるアースターミナルを使用して、アース結線をおこなってください。アースターミナルの位置は「3. 電気配線図」を参照ください。

13. 部品定格



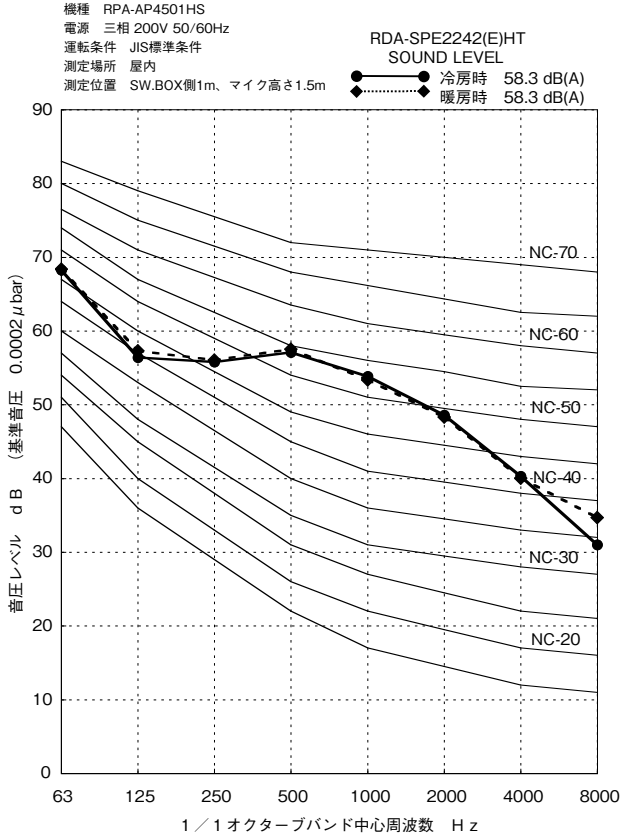
品名		形名	RDA-SPE2242(E)HT	RDA-SPE2802(E)HT
室 外 側	圧縮機	DA420A3FB-20M	出力：2.7kW×2	出力：1.8kW×2
		DA420A3FB-20M	出力：1.8kW×2	—
	アキュムレータ		容量＝約11L	
	オイルセパレータ		容量＝約5L	
	コイル（四方弁）	LB64043	AC200V 50/60Hz用	
	四方弁	VT60101	—	
	コイル（二方弁）	VPV-MOAG606A0	AC200V 50/60Hz用	
	二方弁	VPV-122D01	—	
	コイル（電子制御弁）	EKV-M0ZS724E0	DC12V	
	電子制御弁	VKV-25D17	—	
	逆止弁	BCV-1306DY	φ19.05	
	逆止弁	BCV-302DY	φ6.35	
	ファンモータ	ICF-230-401-1	DCモータ 200V/400W	
	プロペラファン		φ670 AS-G	
	低圧センサ	NSK-BC010L-015	0.5～3.5V/0～0.98MPa	
	圧力スイッチ	JCB-JBK9	ON：3.2MPa OFF：4.15MPa	
	ケースヒータ		26W×2	
	ヒューズ		AC250V 30A	
	ヒューズホルダ		AC250V 30A	
	電解コンデンサ		DC350V 1500μF	
	リアクタ	CH-44-FK	1.4mH 25A	
	ラインフィルタ		AC250V 30A 1mH MCC-1388	
	トランス	TT-04-02	AC200V入力：AC18V-270mA	
	A3-IPDU	IPDU-2T62DB1	6.2kW MCC-1385	
	A3-IPDU	IPDU-2T62DB2	6.2kW MCC-1385	
	ファン用IPDU		400W MCC-1384	
I/F基板		MCC-1383		
室 内 側	送風機用電動機		1.5kW	2.2kW
	TAセンサ		リード線長さ1200mm	
	TCセンサ		φ6サイズ リード線長さ1200mm ビニールチューブ(黒)	
	TCJセンサ		φ6サイズ リード線長さ1200mm ビニールチューブ(赤)	

14. 騒音データ

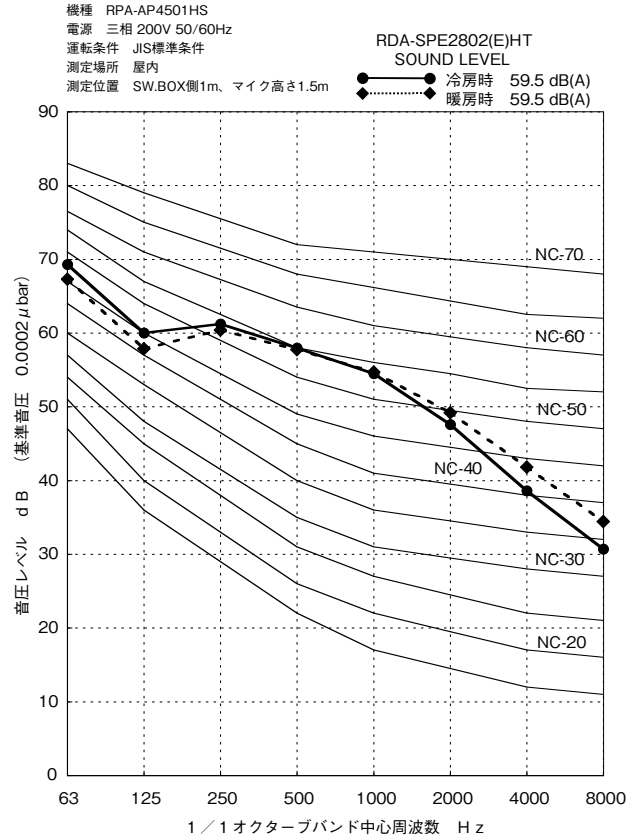


(注) 騒音値は無響室あるいは反射の少ない場所での測定値です。
 実際の据付状態では、周囲の騒音や反射の影響を受けこの値より大きくなります。

RDA-SPE2242(E)HT



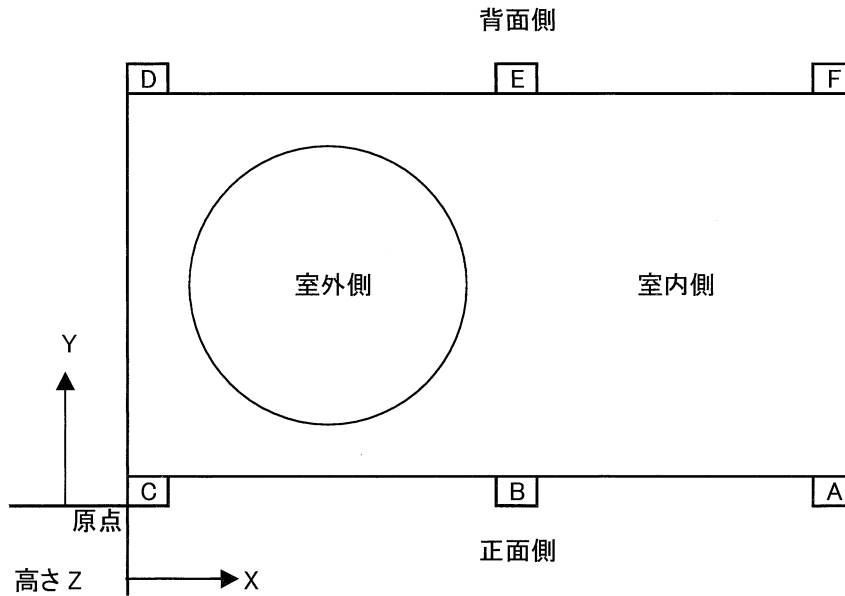
RDA-SPE2802(E)HT



15. 荷重分布・重心位置

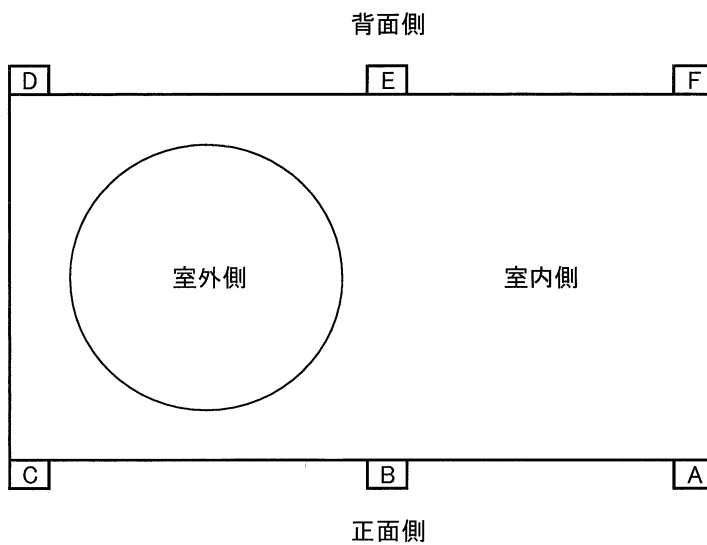


機種 RDA-	製品質量 (kg)	荷重分布 (kg)						重心位置 (mm)		
		A	B	C	D	E	F	X	Y	Z
SPE2242(E)HT	360	40	94	54	49	86	37	880	360	685
SPE2802(E)HT	370	43	97	54	49	88	39	894	360	686



振動値 空冷式シングルエース 8・10馬力

16. 振動値



RDA-SPE2242(E)HT / 2802(E)HT	
測定箇所	両振幅 (μm)
A	20
B	7
C	7
D	8
E	12
F	15

運転条件: 高圧3.1MPa、低圧0.9MPa時

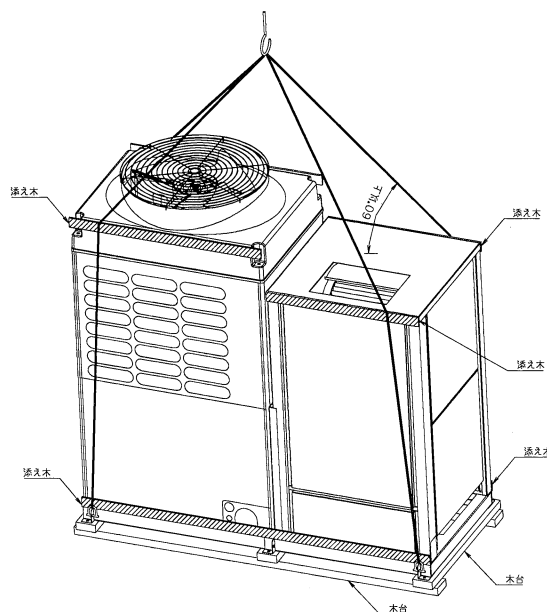
17. 据 付



17-1. 搬 入

- ① ユニットの荷受けの状態のまま最終据付場所まで運搬し、梱包は原則として据付場所に搬入終了後に開梱してください。搬入前に開梱するとフレームやパネルを損傷するおそれがあります。
- ② ユニットの吊り下げは、下図に示す位置を支持して行なってください。
- ③ ワイヤ掛けは、両サイドのベースチャンネルに掛けてください。補強材を使用し、ワイヤによるユニットの変形を防止してください。また、パネルとワイヤの間に毛布等をはさむとパネルの損傷が防止できます。
- ④ ユニットのボルトで木台に固定されています。ユニットを据え付ける前に木台を外してください。
- ⑤ ユニットの据付場所に搬入したら開梱し、輸送中の外傷の有無を確認してください。
- ⑥ 運搬中はユニットを横転させたり、15°以上傾けないでください。

(ユニット吊り上げ例)



17-2. 据付場所

据付場所の選定にあたっては、次の点に注意してください。

- ① ユニットの製品質量を十分支えることの出来る場所をお選びください。
- ② 据付面はできるだけ水平にしてください。(ユニットの全長に対して高低差が10mm以内) この水平度が保たれないとドレンの水はけが悪くなります。
- ③ ユニットの周囲には外形図(据付スペース)に示す幅で新鮮外気の入取れとサービスのための空間を確保してください。またユニット上部には吐出空気の間隙として少なくとも2.0m以上あけるようにしてください。また、ユニットを囲む障害物の高さは、ユニットの下端より0.8m以下とってください。
- ④ 下記のような場所には設置しないでください。ユニット故障の原因となります。

● 機械油などの飛沫の多い場所	● 海岸地帯の塩分の多い場所 (耐塩害・重塩害仕様としてください)
● 温泉地などの硫化ガスの多い場所	● 酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所
● 可燃性ガスの発生・流入・滞留の恐れのある場所	● カーボン繊維や金属粉の浮遊する場所
● その他、煙突からの煙などのかかる場所	● 高湿度の場所

17. 据 付



- ⑤ 空気熱交換器に腐食を生じる場所、目詰りを起こすような浮遊粉塵や異物のある場所には設置しないでください。
- ⑥ 地上設置の場合、出水等によりベースより上まで冠水する場所は避けてください。
- ⑦ ユニットはデフロストサイクル時に発生する水や氷をスムーズに取り除くことのできる場所に設置してください。基礎の周囲に排水溝を設けることをおすすめします。
- ⑧ 据付場所はダクト工事および電気配線に支障のない場所を選んでください。

● 積雪地域で運転される場合

積雪地域において冬期ユニット運転をおこなう場合、ユニットが雪に埋められると機器に異常を生じます。ユニットを正常に運転させるためには、設置される環境を配慮の上、必要により以下のような対策をおこなってください。

- ① 雪の吹きだまり箇所、屋根の軒下には据付けないでください。
- ② 空気熱交換器の面が風雪の方向へ向かないようにユニットの設置方向を決定してください。(空気熱交換器の面ができるだけ風雪の方向に対して平行になるようにしてください。)
- ③ ユニットの周囲に積もった雪をコイルの方へ吸込まないようにするため、積雪量+50cm程度の高さの架台を設置してください(現地手配)。
 - 架台はアングル鋼材などで組立て、風雪が素通りするような構造にしてください。
 - 架台への積雪を防ぐため、架台の幅はユニットの寸法より大きくしないでください。
- ④ ユニット吸込口、吹出口への積雪(着雪)を防ぐために、ユニット室外側の吸込口、吹出口に防雪フードを取付けてください。
- ⑤ デフロストサイクル時に発生する水や氷をスムーズに取り除くことのできる場所をお選びください。
- ⑥ 予想外の大雪や風向きの変化などにより、防雪フードの開口部からの雪の進入が懸念される場合、ファンデッキ、コイル下部、あるいはドレン水の凍結防止処置のため、電気ヒータを取付けることも可能です。別途、お問い合わせください。
- ⑦ 以上のような方法で防ぐことができないような降雪状態が予測される場合(強風、あるいは風向きが変わる場合など)、ユニットを建物の中へ設置してください。その場合、外部との通風が可能であり、吸込空気と吹出空気がショートサイクルしないような構造の中にユニットを設置してください。

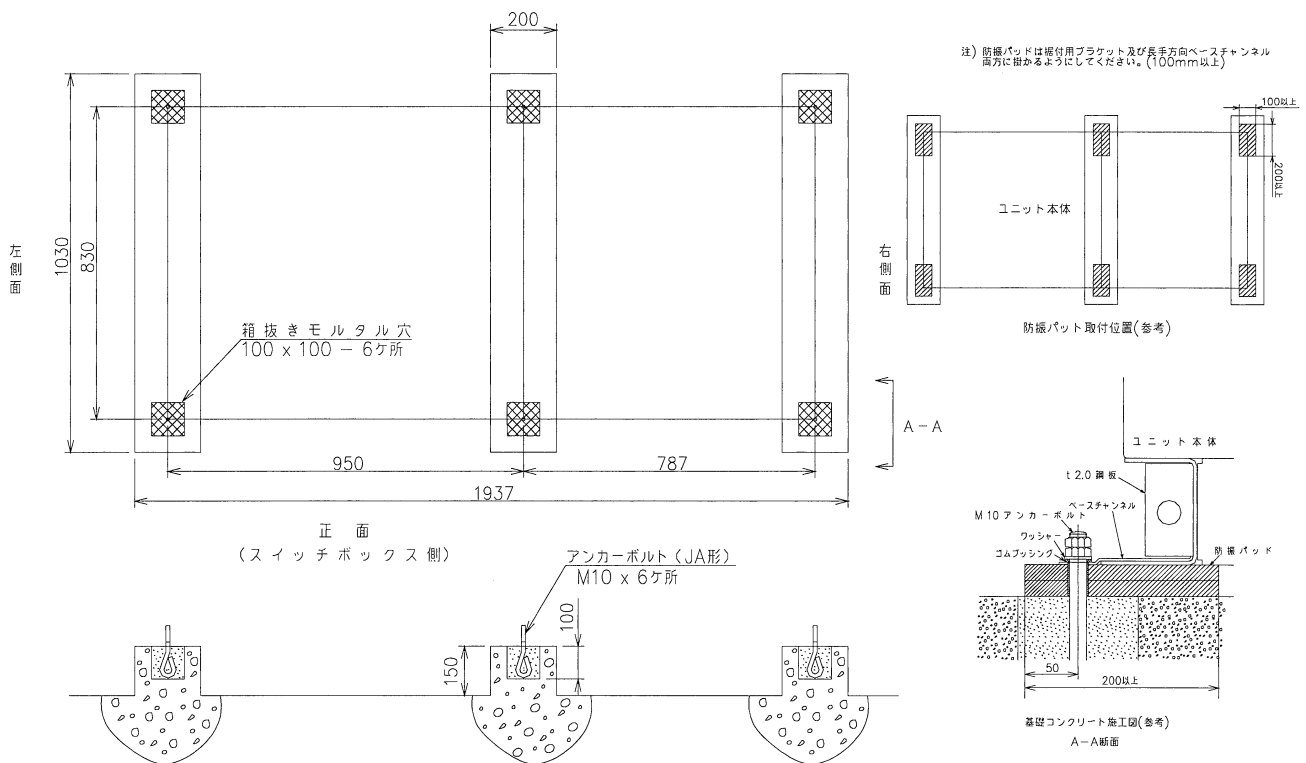
17. 据 付



17-3. ユニットの据付

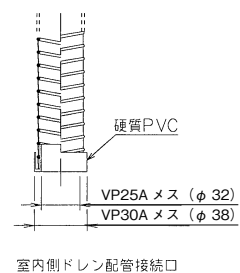
- ① ユニットの基礎は下図を参考に施工してください。ユニットには長手方向に2本のベースチャンネルがあり、ベースチャンネルの両端、及び中央部の据付用ブラケットの据付用孔（6箇所）を使用してユニットを固定してください。
- ② 据付に際してユニットの重心位置を考慮する必要がある場合は、「15. 荷重分布・重心位置」を参照してください。
- ③ ユニットの基礎は、専用の基礎コンクリート等を準備して、水平に据え付けてください。据付基礎図の例を参考に基礎及びアンカーボルトピッチを決定して下さい。
- ④ 基礎の周囲に排水溝を設け、ユニット周囲のドレン排水に留意してください。
- ⑤ アンカーボルトは設計用水平震度1.0Gの場合を示します。耐震型（設計用水平震度1.5G）の場合、ケミカルアンカー（M10）を使用する必要があります。
- ⑥ 防振パッドは厚さ20mm、幅100mm程度以上で、下図を参考に敷いてください。

据付基礎図(参考)



17-4. ドレン配管 (室内機側)

室内機側ドレン配管は、ユニット内でトラップを取っていますのでユニット外ではトラップを取る必要がありません。また接続口は塩ビ管になっておりますので、塩ビ管用接着剤を利用してドレン配管の接続を行ってください。なお、接続位置は外形寸法図を参照ください。また据付基礎自体に排水溝がある場合は、特にドレン配管を行う必要はありません。

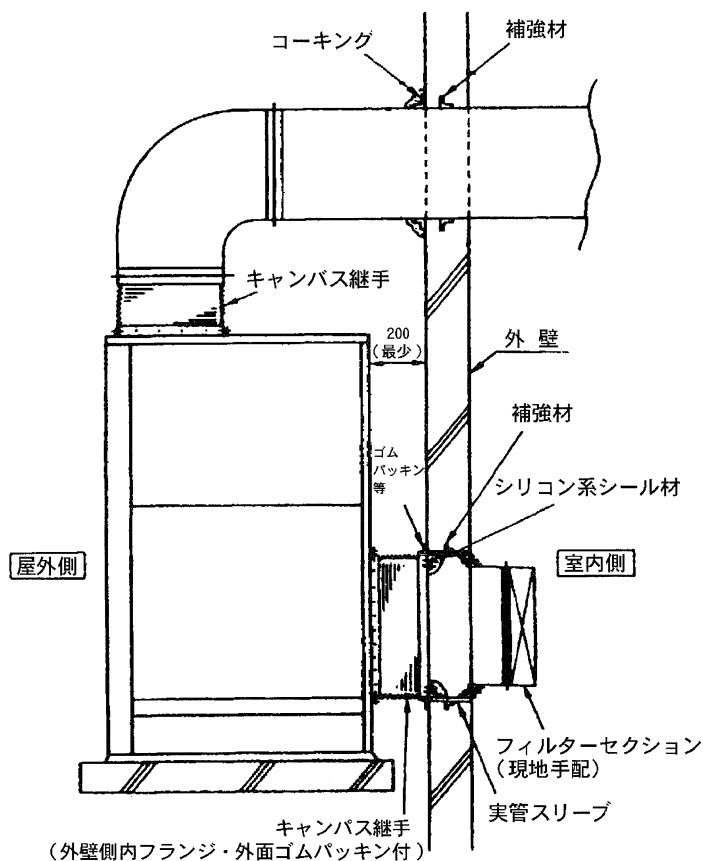


17. 据 付



17-5. ダクト接続（室内機側）

サプライダクト（室内吹出側）とレターンダクト（室内還気側）の接続は、別売品の吸込フランジと吹出フランジを取付けてダクト施工をお願いします。また、ダクトの接続に際しては、屋外一般ダクト接続用のビニロン系キャンバス継手を使用してください。なお、吸込側のキャンバス継手は、あらかじめユニットに固定した状態で施工すると簡単に処理できます。



注. 工場出荷時では、リモコン内蔵のサーモにより温度を感知して運転制御するように設定されています。リモコンの設定場所により室温とサーモの感知する温度とは多少異なります。設定数値は室温の目安としてください。また、室内機側吸込口付近の温度にて運転制御するように設定を変更することもできます。

18. 運転制御の概要



18-1. リモコン(別売部品)操作方法

- リモコン操作部《下の図はふたを開けた状態を示しています。》

一度運転内容を設定すると、その後は運転/停止ボタンを押すだけでご使用になれます。

リモコンセンサー

通常はリモコン周辺の温度を感知していますが、室内側ユニット吸込み口に取り付けられている温度センサーにて吸込み空気温度を感知させることもできます。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

仕切線

電源が入っているとリモコン表示部に仕切線が表示されます。

運転ランプ

運転中は点灯します。異常時、保護装置動作中は点滅します。

運転/停止ボタン

風速切換ボタン

本ユニットでは使用しません。

タイマー設定ボタン

タイマー設定時に使用します。

フィルター昇降ボタン

本ユニットでは使用しません。

点検ボタン

試運転時に使用します。
※通常は使用しないでください。

換気ボタン

本ユニットでは使用しません。

フィルターリセットボタン

本ユニットでは使用しません。

オートフラップボタン

本ユニットでは使用しません。

温度設定ボタン

▲ 設定温度を1℃ずつ上げます。
▼ 設定温度を1℃ずつ下げます。

運転切換ボタン

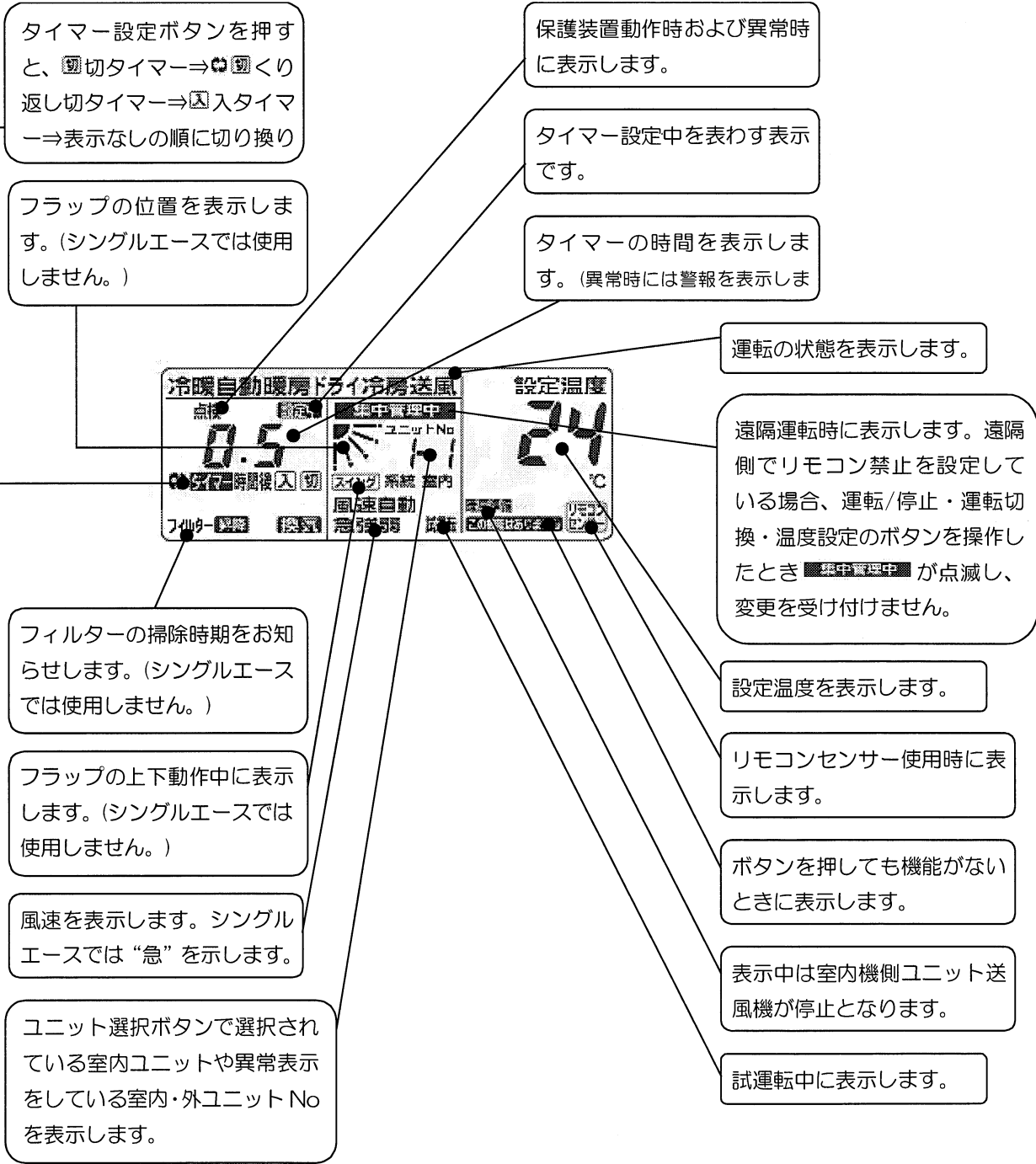
運転モードを切り換えるときに押します。

18. 運転制御の概要



● リモコン表示部《液晶部の表示は、説明用のもので実際とは異なります。》

手元電源スイッチを最初に入れたとき、リモコンの表示部に“設定中”が点滅することがあります。この表示中は自動機種確認中ですので“設定中”が消えた後リモコンの操作を行ってください。



18. 運転制御の概要



18-2. 室内側制御概要

NO.	項目	仕様の概要	備考																								
1	運転切換	<p>(1) リモコンからの運転切換指令に基づき、運転モードを切換えます。</p> <table border="1" data-bbox="517 416 1153 1099"> <thead> <tr> <th>リモコン指令</th> <th>制御の概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>停止</td> <td>エアコンを停止</td> </tr> <tr> <td>送風</td> <td>送風運転</td> </tr> <tr> <td>冷房</td> <td>冷房運転</td> </tr> <tr> <td>暖房</td> <td>暖房運転</td> </tr> <tr> <td>自動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ TaとTs及びToにより冷暖房運転モードを自動的に選択肢運転します。 ・ 初回のみTaの値に従い下図の運転となります。(Ts+α-1<Ta<Ts+α+1の範囲では送風・設定風量運転を継続します。) <ul style="list-style-type: none"> ・ αは外気温度により補正されます。 <table border="1" data-bbox="759 947 1042 1093"> <thead> <tr> <th>外気温度</th> <th>補正值(α)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Toなし</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To ≥ 24°C</td> <td>-1K</td> </tr> <tr> <td>24 > To ≥ 18°C</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To < 18°C</td> <td>+1K</td> </tr> <tr> <td>To異常</td> <td>0K</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	リモコン指令	制御の概要	停止	エアコンを停止	送風	送風運転	冷房	冷房運転	暖房	暖房運転	自動	<ul style="list-style-type: none"> ・ TaとTs及びToにより冷暖房運転モードを自動的に選択肢運転します。 ・ 初回のみTaの値に従い下図の運転となります。(Ts+α-1<Ta<Ts+α+1の範囲では送風・設定風量運転を継続します。) <ul style="list-style-type: none"> ・ αは外気温度により補正されます。 <table border="1" data-bbox="759 947 1042 1093"> <thead> <tr> <th>外気温度</th> <th>補正值(α)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Toなし</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To ≥ 24°C</td> <td>-1K</td> </tr> <tr> <td>24 > To ≥ 18°C</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To < 18°C</td> <td>+1K</td> </tr> <tr> <td>To異常</td> <td>0K</td> </tr> </tbody> </table>	外気温度	補正值(α)	Toなし	0K	To ≥ 24°C	-1K	24 > To ≥ 18°C	0K	To < 18°C	+1K	To異常	0K	<p>Ta：室温 Ts：設定温度 To：外気温度</p>
リモコン指令	制御の概要																										
停止	エアコンを停止																										
送風	送風運転																										
冷房	冷房運転																										
暖房	暖房運転																										
自動	<ul style="list-style-type: none"> ・ TaとTs及びToにより冷暖房運転モードを自動的に選択肢運転します。 ・ 初回のみTaの値に従い下図の運転となります。(Ts+α-1<Ta<Ts+α+1の範囲では送風・設定風量運転を継続します。) <ul style="list-style-type: none"> ・ αは外気温度により補正されます。 <table border="1" data-bbox="759 947 1042 1093"> <thead> <tr> <th>外気温度</th> <th>補正值(α)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Toなし</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To ≥ 24°C</td> <td>-1K</td> </tr> <tr> <td>24 > To ≥ 18°C</td> <td>0K</td> </tr> <tr> <td>To < 18°C</td> <td>+1K</td> </tr> <tr> <td>To異常</td> <td>0K</td> </tr> </tbody> </table>	外気温度	補正值(α)	Toなし	0K	To ≥ 24°C	-1K	24 > To ≥ 18°C	0K	To < 18°C	+1K	To異常	0K														
外気温度	補正值(α)																										
Toなし	0K																										
To ≥ 24°C	-1K																										
24 > To ≥ 18°C	0K																										
To < 18°C	+1K																										
To異常	0K																										
2	室温制御	<p>(1) 調整範囲 リモコン設定温度(°C)</p> <table border="1" data-bbox="517 1160 1094 1218"> <thead> <tr> <th></th> <th>冷房運転</th> <th>暖房運転</th> <th>自動運転</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ワイヤードタイプ</td> <td>18~29</td> <td>18~29</td> <td>18~29</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 項目コード 06 により暖房運転時の設定温度を補正できます。</p> <table border="1" data-bbox="517 1285 1094 1344"> <thead> <tr> <th>設定データ</th> <th>0</th> <th>2(出荷時設定)</th> <th>4</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定温度補正</td> <td>+0°C</td> <td>+2°C</td> <td>+4°C</td> <td>+6°C</td> </tr> </tbody> </table>		冷房運転	暖房運転	自動運転	ワイヤードタイプ	18~29	18~29	18~29	設定データ	0	2(出荷時設定)	4	6	設定温度補正	+0°C	+2°C	+4°C	+6°C	<p>暖房吸込温度シフト 項目コードについては「機能切換設定方法」の項を参照してください。</p>						
	冷房運転	暖房運転	自動運転																								
ワイヤードタイプ	18~29	18~29	18~29																								
設定データ	0	2(出荷時設定)	4	6																							
設定温度補正	+0°C	+2°C	+4°C	+6°C																							
3	能力自動制御 (GA 制御)	<p>(1) Ta と Ts の差により、室外機に対して運転周波数を指令します。</p> <p>(2) 冷房運転 90 秒毎に Ta で検出した温度と Ts の室温差および室温変化量を計算し周波数指令の補正量を求め、現在の周波数指令を補正します。 Ta(n)-Ts(n)：室温差 n：検出回数 Ta(n-1)-Ts(n)：室温変化量 n-1：90 秒前の検出回数</p> <p>(3) 暖房運転 1 分(60 秒)毎に Ta で検出した温度と Ts の室温差および室温変化量を計算し周波数指令の補正量を求め、現在の周波数指令を補正します。 Ts(n)-Ta(n)：室温差 n：検出回数 Ts(n)-Ta(n-1)：室温変化量 n-1：1 分前の検出回数</p>																									

18. 運転制御の概要



NO.	項目	仕様の概要	備考						
4	冷暖自動制御	<p>冷房／暖房の切替判定は下図によります。</p> <p>サーモ OFF 後 10 分以降に Tsh に対して +1.5 を超えると暖房(サーモ OFF)から冷房運転に切り替わります。 ()内は冷房 ON/OFF の一例です。</p> <p>サーモ OFF 後 10 分以降に Tsc に対して -1.5 より下がると冷房(サーモ OFF)から暖房運転に切り替わります。</p> <p>(2) 冷房／暖房判定ごの能力自動制御は、3 項によります。 (3) 自動暖房時の室温制御温度補正は、2 項によります。</p>	<p>Tsc : 冷房時設定温度 Tsh : 暖房時設定温度 +室温制御温度補正</p>						
5	冷風吹出防止制御	<p>(1) 暖房運転時、Tc センサまたは Tcj センサの検出温度(運転状態により 28～32℃で可変)に基づき室内送風 ON/OFF 制御を行います。</p>							
6	凍結防止制御(低温リリース)	<p>(1) 冷房運転時、(ドライ運転も含む)Tc センサまたは Tcj センサの検出温度に基づき次のように運転します。</p> <p>「J」ゾーンを 6 分間(下表)検出すると、実運転周波数から指令周波数を下げます。以降「J」ゾーンにある間、30 秒ごとに指令周波数の変更をします。</p> <p>「K」ゾーンでは、タイマカウントを中断し保持します。</p> <p>「I」ゾーンを検出するとタイマをクリアし通常運転に戻ります。</p> <p>「J」ゾーンの継続により指令周波数が S0 となったときは、復帰温度 A を 5℃→12℃まで上げて、「I」ゾーンになるまで室内送風機を停止します。</p> <p>また、暖房運転時でも四方弁が切り換えられず次の条件が成立するときは、凍結防止制御を実施します。 (ただし、Jゾーン突入制御温度を 2℃→-5℃に変更します。)</p> <p><条件> 起動 5 分後①または②が成立するとき。 ① $T_{cn} \leq T_{c(n-1)} - 5$ ② $T_{cn} < T_{c(n-1)} - 1$ かつ $T_{cn} \leq T_a < 5^\circ\text{C}$</p>	<p>Tcj : 室内熱交センサ温度</p> <p>Tcn : 起動 5 分経過後の Tc 温度 Tc(n-1) : 起動時の Tc 温度</p>						
7	高温リリース	<p>(2) 暖房運転時、Tc センサまたは Tcj センサの検出温度に基づき次のように運転します。</p> <p>「M」ゾーンを検出すると、実運転周波数から指令周波数を下げます。以降「M」ゾーンにある間、30 秒ごとに指令周波数の変更をします。</p> <p>「N」ゾーンでは指令周波数を保持します。</p> <p>「L」ゾーンを検出すると指令周波数を 60 秒毎に、約 6Hz 元に戻します。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>出荷時設定</td> <td>制御温度</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>56 (54)</td> <td>52 (52)</td> </tr> </table> <p>注) 運転開始時、または運転開始後 Tc または Tcj < 30℃ となった場合は制御温度 A・B の () 内の値で制御します。</p>	出荷時設定	制御温度	A	B	56 (54)	52 (52)	<p>サーモ OFF 時も同様です。</p>
出荷時設定	制御温度								
A	B								
56 (54)	52 (52)								

18. 運転制御の概要



NO.	項目	仕様の概要	備考
8	遠隔(HA)制御	(1) テレコンまたは遠方I/Fなどに接続され、遠方からのHA信号入力により運転/停止ができます。 (2) HA出力端子に運転/停止状態を出力します。 (3) HAの入出力仕様はJEMA規格に準拠しています。	遠方発停用に使用。HA端子(CN61)を使用する場合、接続コネクタが必要です。
9	周波数固定運転(試運転)	① 「点検」ボタンを4秒以上押しと、しばらくして表示部に「試運転」と表示されます。 ② 「運転/停止」ボタンを押します。 ③ 「運転切換」ボタンで、運転モードを「冷房」か「暖房」にしてください。 ● 「冷房」/「暖房」モード以外では使用しないでください。 ● 「試運転」中は、温度調節はできません。 ● 異常検出は、通常通り行います。 ● 周波数固定の運転を行います。 ④ 試運転が終了したら、「運転/停止」ボタンを押して運転を停止してください。 (表示部の表示が手順①と同じになります。) ⑤ 「点検」ボタンを押し、試運転モードを解除してください。 (表示部の「試運転」が消え、通常停止状態となります。)	指令周波数「S7」程度
10	集中制御モード切換	(1) 集中制御器側の設定により、室内ユニット側のリモコンで操作できる内容を切り換えることができます。 (2) RBC-AMT21 [後押し優先]：室内ユニット側リモコン・集中制御器の両方から操作でき、後から操作した内容で運転します。 [センター]：室内ユニット側リモコンでは運転/停止のみ操作できます。 [運転禁止]：室内ユニット側リモコンでは操作できません。(停止のまま)	(表示なし) 「集中管理中」点灯 「集中管理中」点灯
11	省エネ制御(接続室外機による)	(1) 「自動」運転モードを選択すると省エネ運転ができます。 (2) 各種センサの入力値から、快適性を損なわない範囲で設定温度をシフト(補正)します。 (3) 入力値は室温 T_a ・外気温度 T_o ・風量・室内熱交センサ温度 T_c であり、20分間のデータを平均化し設定温度補正值を算出します。 (4) 設定温度シフトは20分毎に行ない、シフト幅は 冷房時：+1.5~-1.0K 暖房時：-1.5~+1.0K の範囲で行ないます。	
12	最大周波数カット制御	(1) 「自動」運転モードを選択すると行なわれます。 (2) 冷房運転モード： $T_o < 28^{\circ}\text{C}$ の場合、下図に基づき制御します。 (3) 暖房運転モード： $T_o > 15^{\circ}\text{C}$ の場合、下図に基づき制御します。 	



18. 運転制御の概要

18-3. 室外側制御概要

(1) PMV (電子制御弁) 制御

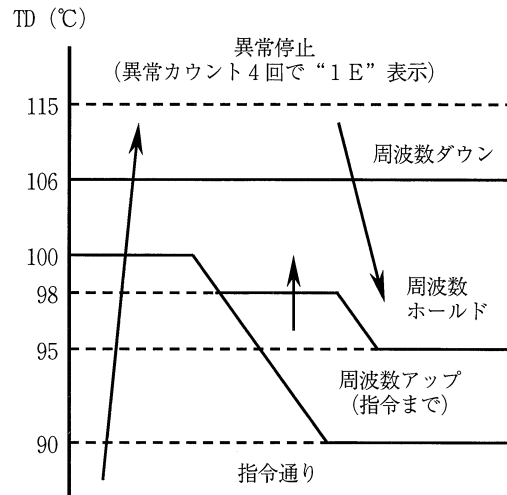
- ① PMV (1,2) 開度は、運転中に 90 (45+45) ~1000 (500+500) パルスの間で制御されます。
- ② 冷房および暖房運転中は、吸込配管温度センサ(TS)の検出温度と圧力センサ(PS)の飽和温度換算値との差で PMV 開度を制御しています。(SH制御)
- ③ 冷暖房共に②の温度差 (SH値) は、通常約 5K を目標にして制御しています。
(ただし、運転状況に応じて 1~15K の範囲内で制御する場合があります)
- ④ 冷暖房共にサイクル過熱時は、吐出配管温度センサ(TD)の検出値で PMV 開度を制御します。通常目標値は冷暖房共に 102℃です。

— お願い —

センサ故障は、圧縮機の液バックや異常加熱をまねき、圧縮機の寿命を著しく縮める場合があります。万が一、圧縮機などを故障修理した場合は必ず、各センサの抵抗値や冷凍サイクルを調べて異常のないことを確認してから運転を開始してください。

(2) 吐出温度リリース制御

- ① PMVの制御でも吐出温度が低下しない場合、または吐出温度上昇が急速な場合、運転周波数を下げる制御です。周波数制御を 0.6Hz 単位まで細かくし、サイクルの安定化を図っています。
- ② 吐出温度が異常ゾーンを検出すると、セットは圧縮機を停止し、2分 30秒後に再起動します。異常ゾーンを検出するごとに異常カウンタを加算し、4回検出すると“1E”異常となります。異常カウンタは正常な運転状態を 10分間運転を継続した時点でクリアされます
※ 冷媒が極端に少ない場合や、PMV不良、サイクル詰まりなどが異常の原因として考えられます。



(3) 室外ファン回転数制御

本機種で制御しているファン運転モードと実際のファン回転数の関係は下表の通りです。
(本機種では、ファンの回転数を 16 段階のステップに分割して制御しています。)

ファンモードの回転数割付

ファンモード	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
回転数 (rpm)	150	170	195	220	245	275	325	345	395	420	490	505	550	605	660	670

(3)-1. 冷房ファン制御

- ① 冷房時は、熱交温度センサ(TE), 外気温センサ(TO)の各温度検出値によって室外ファンの回転数を制御します。
- ② 冷房起動時は、TO 温度検出値によってファンモードを 120 秒間だけ固定します。

冷房起動時のファンモード設定

TO 温度 (°C)	TO<10	10≤TO<15	15≤TO<20	20≤TO<30	30≤TO
ファンモード	3	6	9	12	16

- ③ 冷房運転中は、TE 温度検出値によってファンモードの上限を設定しています。

冷房運転中のファンモード上限規定設定

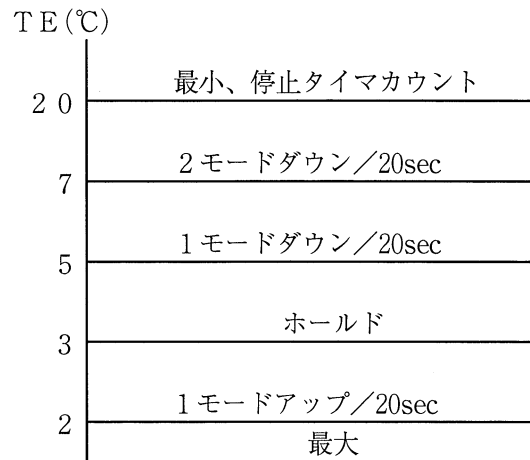
TE 温度 (°C)	TE<18	18≤TE<22	22≤TE<26	26≤TE<30	30≤TE<34	34≤TE<38	38≤TE
ファンモードの上限設定	1	2	4	6	10	15	16

18. 運転制御の概要



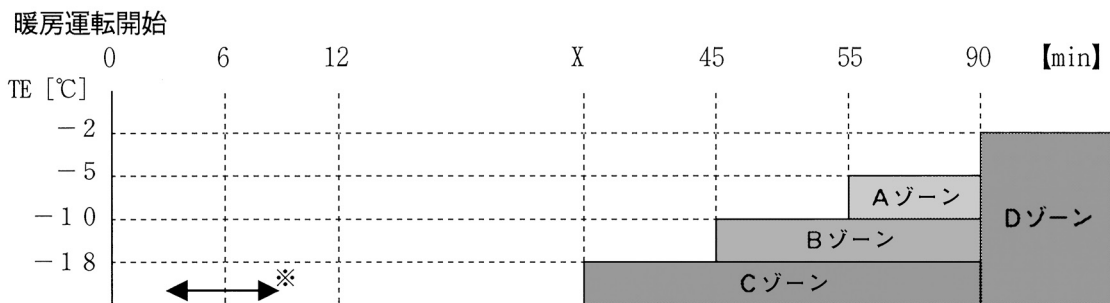
(3)ー2. 暖房ファン制御

- ① 暖房時は、熱交温度センサ(TE)検出値によって室外ファン回転数を制御します。外気温度が高いときなどTE温度が上昇した場合にファン回転数を下げる制御です。
- ② TE>20℃を5分間継続して検出すると、運転を停止させることがあります。このときは、異常表示もなく通常のサーモOFFと同じ状態となります。約2分30秒後に再起動します。この制御は、温度使用範囲外の運転を防止する目的で行っており、システムの異常ではありません。
- ③ 「②」のような状態が頻繁に起きるような場合は、室内ユニットの吸込み部のフィルタが汚れていることが考えられます。フィルタを清掃し、運転を再開してください。
- ④ 起動後3分間、除霜後1分間、および除霜中は、本制御による停止動作は行いません。



(4) 除霜制御

- ① 暖房運転時、熱交温度センサ(TE)がAからDゾーンのどれかの条件を満たしたときに除霜を行います。
- ② 除霜中、TE温度が12℃以上を3秒間継続、または7℃≤TE<12℃を1分間継続したときに除霜を終了します。なお、TEセンサ温度が7℃未満でも、除霜運転を10分間継続すると除霜は終了します。



※暖房運転開始後6分～12分までのTEの最低値をTE0として記憶します。

Aゾーン	このゾーンで、TE0-TE≥3℃を20秒継続したときに除霜を行う。
Bゾーン	このゾーンで、TE0-TE≥2℃を20秒継続したときに除霜を行う。
Cゾーン	このゾーンを20秒継続したときに除霜を行う。
Dゾーン	このゾーンに入ったときに除霜を行う。

形名	X
RDA-SPE2242(E)HT	35
RDA-SPE2802(E)HT	40



18. 運転制御の概要

(5) 短断続運転防止制御

- ① 運転開始から8分間は、室内からサーモOFF信号を受信しても、圧縮機保護のため、圧縮機を停止させない場合があります。この状態は異常ではありません。
- ② リモコンで運転停止した場合は、運転を継続することはありません。

(6) A 3圧縮機用IPDU（インバータ制御）

2台のIPDUは、I/F基板からの圧縮機周波数、周波数アップ/ダウンスピード、電流リリース制御値の指令により、2台の圧縮機をシンクロ運転制御します。

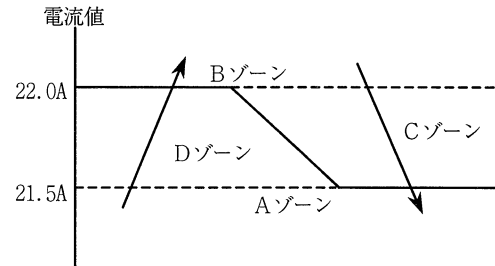
※本製品は、常に2台の圧縮機が同時に運転します。片側の圧縮機だけで運転することはありません。

※どちらかのIPDUで異常が発生した場合は、2台の圧縮機を同時に停止しています。

(6)-1. 電流リリース制御

インバータ入力電流が所定値以上にならないように、IPDU制御基板上の外気温センサ(T02)によるAC電流検出値によって出力周波数を制御します。

Aゾーン	通常運転を行う。
Bゾーン	現状運転周波数を維持する。
Cゾーン	運転周波数を減少させる。
Dゾーン	運転周波数減少をやめ、現状運転周波数を維持する。



(6)-2. ヒートシンク温度検出制御

- ① IGBT過熱防止保護を、圧縮機駆動用モジュールQ200内にあるサーミスタ（TH 温度）により保護する制御です。
- ② $TH \geq 85^\circ\text{C}$ を検出したとき、ファン運転モードを+1ステップアップさせます。以降、ファン運転モードを+1ステップ/5秒の速度で最大ファンモードまでアップさせます。
- ③ 「②」の後、 $TH/80^\circ\text{C}$ で通常のファン制御に復帰します。
- ④ $TH \geq 105^\circ\text{C}$ で、圧縮機の運転を停止させます。
- ⑤ 異常カウントを「1」として2分30秒後に再起動しますが、同じ動作でカウント「4」になったとき異常が確定します。異常表示は「1C」となります。（再起動は行いません）

※ 異常確定時は、室外機の熱ごもりや送風機異常、IPDU基板異常等が考えられます。

※ TH温度はIPDU1またはIPDU2のどちらか高い方の温度が適用されます。

(6)-3. 過電流保護制御

- ① 過電流保護回路が異常電流を検出した場合、圧縮機を停止させます。
- ② 異常カウントを「1」として約2分30秒後に再起動します。再起動後、10分以上運転を継続すると異常カウントはクリアされます。
- ③ 異常カウント「8」で異常確定となります。

(6)-4. 高圧SW/圧縮機ケースサーモ制御

- ① 高圧スイッチまたは圧縮機ケースサーモが動作した場合、圧縮機を停止させます。
- ② 異常カウントを「1」として約2分30秒後に再起動します。再起動後、10分以上運転を継続すると異常カウントはクリアされます。
- ③ 異常カウント「6」で異常確定となります。

18. 運転制御の概要



18-4. 機能切換設定方法

<手順> 停止中に行なってください。

- ① リモコンの **セット** + **取消** + **点検** ボタンを4秒以上同時に押します。
最初に表示されるユニット番号はグループ制御内の親機のアドレスを指します。
このとき、選択されている室内側ファンが動作します。
- ② **ユニット選択** ボタンを押すごとに、グループ制御内のユニット No を順次表示します。このとき、選択されている室内側ファンが動作します。
- ③ 設定温度 **▲** **▼** ボタンで、項目コード(DN)を指定します。
- ④ タイマ時間 **▲** / **▼** ボタンで、設定データを選択します。
- ⑤ **セット** ボタンを押します。(表示が点灯すればOK)
・選択している室内ユニットを変更したい場合は②へ
・設定する項目を変更したい場合は③へ
- ⑥ **点検** ボタンを押すと通常の停止状態になります。

機能切換項目番号(DN)表 (項目コード)

DN	項目	内容	工場出荷時
03	集中制御アドレス	0001:1号機 ~ 0064:64号機 0099:未定	0099:未定
06	暖房吸込み温度シフト	0000:シフトなし 0001:+1℃ 0002:+2℃ ~ 0010:+10℃	0002:+2℃
0F	冷専専用	0000:ヒーボン 0001:冷専	0000:ヒーボン
11	室内ユニット能力	0000:(シングルエース) 0001(天カセ4)~0037	0002:+2℃
12	系統アドレス	0001:1号機 ~ 0030:30号機	0099:未定
13	室内ユニットアドレス	0001:1号機 ~ 0064:64号機	0099:未定
14	グループアドレス	0000:個別 0001:グループ親 0002:グループ子	0099:未定
1E	冷暖自動時 冷→暖、暖→冷モード 切換制御点の温度幅	0000:0deg ~ 0010:10deg (設定温度に対して、±(データ値)/2で冷暖反転)	0002:+2℃
28	停電自動復帰	0000:なし 0001:あり	0000:なし
32	センサ切換	0000:ボディセンサ 0001:リモコンセンサ	0001: リモコンセンサ
60	タイマ設定	0000:できる(操作可) 0001:できない(操作禁止)	0000:標準
8d	高暖房感補正	0000:なし 0001:あり	0000:なし

注. 実際のリモコンでは、上表に記載されている以外のDNも表示されますが変更はできません。

18. 運転制御の概要

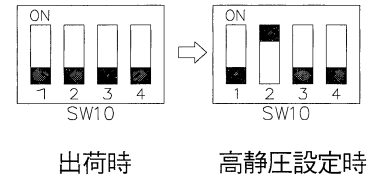


18-5. 応用機能

● 室外ファン高静圧設定

室外送風機へ吹出しダクトや防雪フードを設置する場合に設定します。

- ・この設定により、機外静圧 30Pa(3mmAq)までのダクト設置が可能なように風量を設定します。
- ・ダクト抵抗が 15Pa(1.5mmAq)を超える吹出しダクト (30Pa(3mmAq)以下)を、設置する場合には、本設定を必ず実施してください。
- ・室外機制御基板上的のディップスイッチ SW10 の 2 ビットを ON にしてください。



● パワーセーブ設定

既設の電源設備で、電源配線径が標準仕様より小さい場合、このスイッチを設定することで、電流をセーブし、既設電源配線の流用を可能にします。運転電流値の上限を制限し、下表の電源設備に対応できます。

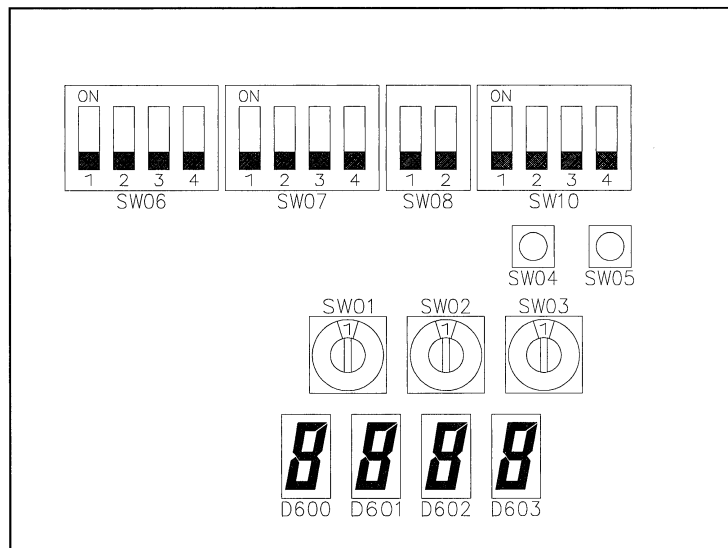
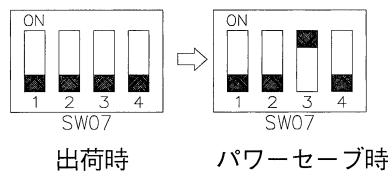
対応する電源配線径		出荷時	設定時
電源配線径	20m 以下	14mm ²	8 mm ²
	20m 超～50m 以下	38mm ²	22mm ²
手元スイッチ(A)		60	60
ヒューズ(A)		60	50

このとき、冷暖房能力は、右表のようになります。

(出荷時を基準とした時の、能力比率で示してあります。)

	出荷時	設定時
冷房能力	基準	100%
暖房能力(低温)	基準	100%
	基準	90%

室外機制御基板上的のディップスイッチ SW07 のビット 3 を ON にしてください。この場合、暖房能力が低下する場合があります。



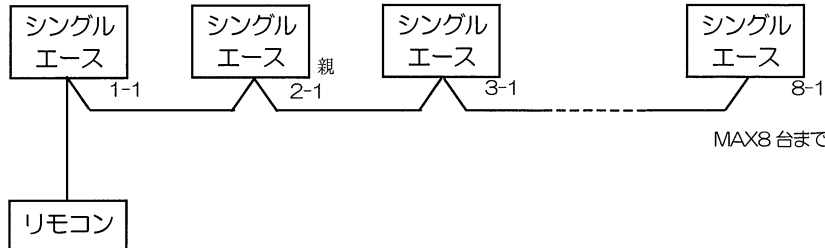
室外機制御基板のスイッチ配置

18. 運転制御の概要



● グループ制御

グループ制御では、1つのリモコンで最大8台までの室内ユニットを運転制御できます。リモコン設定に従って各々室温コントロールします。

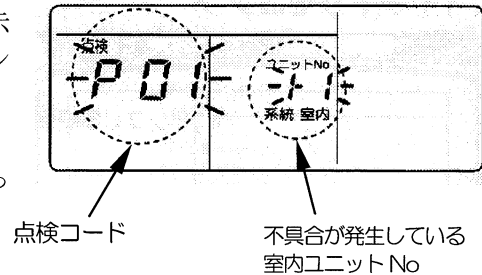


《グループ制御をする場合の注意》

複数台のシングルエースがそれぞれ個別の部屋に設置されており、かつリモコンサーモによる運転制御をする場合、各部屋の空調負荷が違う場合でもリモコンが設置されている部屋の空調負荷に合わせてグループ内のシングルエースの運転状態が決定されてしまい、各々のシングルエースが適切な運転をおこなえない場合があります。この場合、ボディサーモ(室内側吸込み空気温度)を使用するようにし、各部屋の空調負荷に合わせてそれぞれのシングルエースが適切な運転を行えるようにしてください。(工場出荷時はリモコンサーモに設定されています)

18-6. 警報表示の内容

- ・ユニットに不具合が発生した場合、右図のようにリモコン表示部に点検コードと室内ユニット No (グループ制御していないシングルエースの場合、「1-1」) が表示されます。
- ・点検コードは、運転中にのみ表示されます。
- ・表示が消えてしまった場合は、下記の「故障履歴の確認」に従って操作し確認してください。



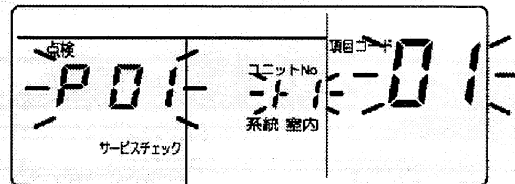
● 故障履歴の確認

ユニットに不具合が発生した場合、以下の手順で故障履歴を確認できます。(故障履歴は4つまでメモリされます。) 運転および停止状態のどちらからでも確認できます。

【故障履歴確認手順】

- ① **セツト** + **点検** ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が下図のように表示されます。表示部に「サービスチェック」が表示されると、故障履歴モードに入ったことを示します。

- ・項目コード[01]が表示。
- ・一番新しい点検コードを[点検]に表示。
- ・不具合が発生した室内ユニット No が表示。



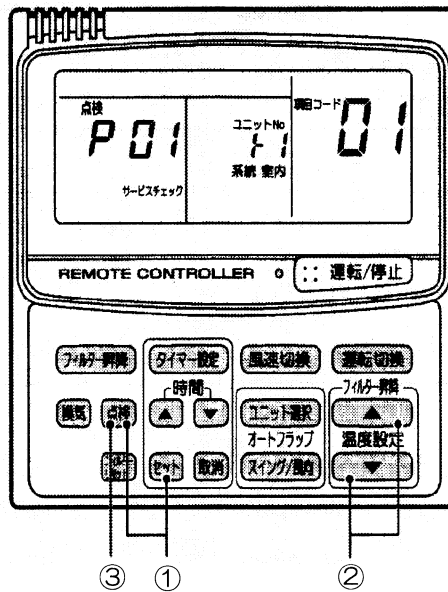
- ② 設定温度の **▲** **▼** ボタンを押すごとに、メモリされている故障履歴が順番に表示されます。項目コードは、項目コード[01] (最新) ⇒ 項目コード[04] (一番古い) を示します。

- ・[項目コード]に合わせて、順次点検コードを[点検]に表示。
- ・[項目コード]に合わせて、不具合が発生した室内ユニット No が表示。

注) [取消] ボタンを押すと、室内ユニットの故障履歴が全て消去されますので、押さないでください。

- ③ 確認できたら「点検」ボタンを押して通常表示に戻ります。

18. 運転制御の概要



● 点検コードと点検箇所

表示	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態
E01	リモコン親なし	リモコン	リモコンの誤設定…親リモコンが設定されていない場合 (含む 2 リモコン)	運転継続
E02	リモコン通信異常	リモコン	渡り線、室内側PC板、リモコン…室内側ユニットから信号が受信できない場合	全停止
E03	室内⇄リモコン間 定期通信エラー	室内	リモコン、通信アダプタ、室内側PC板…リモコン及び通信アダプタから通信が無い場合	自動復帰
E04	室内外シリアル異常 IPDU-CDB 間通信異常	室内	渡り線、室内側PC板、室外PC板…室内外間シリアル通信に異常のある場合	自動復帰
E08	室内側アドレス重複☆	室内	室内側アドレス誤設定…自分と同じアドレスを検出した場合	自動復帰
E09	リモコン親重複	リモコン	リモコンアドレス誤設定…2 リモコン制御で 2 台とも親に設定した場合 (*室内親は警報停止、子は運転継続)	*
E10	CPU 間通信異常	室内	室内側PC板…メイン-モーター-マイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
E18	室内側ユニット親子間 定期通信エラー	室内	室内側PC板…室内親子間の定期通信ができない場合。	自動復帰
F01	室内側ユニット 熱交センサ(TCJ)異常	室内	熱交センサ(TCJ)、室内側PC板…熱交センサ(TCJ)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F02	室内側ユニット 熱交センサ(TC)異常	室内	熱交センサ(TC)、室内側PC板…熱交センサ(TC)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F04	室外機 吐出温度センサ(TD)異常	室外	室外温度センサ(TD)、室外PC板…吐出温度センサのオープン・ショートを検出した場合	全停止
F06	室外機 温度センサ(TE, TS)異常	室外	室外温度センサ(TE, TS)、室外PC板…熱交温度センサのオープン・ショートを検出した場合	全停止
F08	室外機 外気温センサ異常	室外	室外温度センサ(T0)、室外PC板…室外気温センサのオープン・ショートを検出した場合	運転継続
F10	室内側ユニット 室温センサ(TA)異常	室内	室温センサ(TA)、室内側PC板…室温センサ(TA)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F29	室内側ユニット 他の室内基板異常	室内	室内側PC板…E2PROM異常の場合	自動復帰
H01	室外機 圧縮機ブレークダウン	室外	電流検出回路、電源電圧…電流リリース制御にてmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流(I _{dc})検出など	全停止
H02	室外機 圧縮機ロック	室外	コンプ回路…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	室外機 電流検出回路異常	室外	電流検出回路、室外PC板…AC-CTにて異常電流を検出した時、欠相を検出した時	全停止

18. 運転制御の概要



表示	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態
H06	室外機 低圧系異常	室外	電流、高圧スイッチ回路、室外PC板・Ps圧力センサ異常、低圧保護動作	全停止
表示	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態
L03	室内側ユニット親重複☆	室内	室内側アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	個別室内ユニットに グループ線あり☆	室内	室内側アドレス誤設定…個別室内ユニットにグループ接続室内機が1台でもいる場合	全停止
L08	室内グループアドレス 未設定☆	室内	室内側アドレス誤設定…室内アドレスグループ未設定の時	全停止
L09	室内側能力未設定	室内	室内側ユニットの能力が未設定	全停止
L20	LAN 系通信異常	通信アダプタ集中	アドレス設定、集中管理リモコン、通信アダプタ…集中管理系通信のアドレス重複	自動復帰
L29	室外機 他の室外機異常	室外	その他室外機異常 1) IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2) IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
L30	室内側ユニットへの 外部異常入力あり (インターロック)	室内	外部機器チェック、室外PC板…CN80外部異常入力で異常停止	全停止
L31	相順異常 その他	室外	電源相順、室外PC板…三相電源の相順が異常の時	全停止
P01	室内側ユニット 室内側ファン異常	室内	室内側ファンモータ、室内側PC板…室内側ACファンの異常（ファンモータサーマルリレー動作）を検出した場合	全停止
P03	室外機 吐出温度異常	室外	吐出温度リリース制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	室外機 高圧系異常	室外	高圧スイッチ、IOLが動作した場合・TEによる高圧リリース制御にて異常を検出した時	全停止
P19	四方弁異常	室内	四方弁チェック、室内側温度センサ(TC, TCJ)チェック…暖房時室内側熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	全停止
P22	室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ、室外PC板…室外ファン駆動回路にて異常(過電流・ロック等)を検出した時	全停止
P26	室外機 インバータ Idc 動作	室外	IGBT、室外PC板、インバータ配線、コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子(G-Tr・IGBT)の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	室外機 位置検出異常	室外	室外PC板、高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した時	全停止
P31	他の室内ユニット異常	室内	グループ内部の他の室内が警報中の場合 E03/L07/L03/L08警報	自動復帰
-	室内グループ内異常	通信アダプタ	リモコングループ内での子機の異常（手元リモコンは号機とともに詳細表示、集中管理側のみ表示）	-
-	LAN 系通信異常	通信アダプタ集中	集中管理系信号の通信異常 *手元リモコンには表示しません	運転継続
-	通信アダプタが複数台	通信アダプタ	リモコン通信線に通信アダプタが複数台ある場合	運転継続

☆：この時は自動的に自動アドレスモードへ移行します。

別売部品

空冷式シングルエース 8・10馬力

19. 別売部品

19-1. 別売部品一覧表

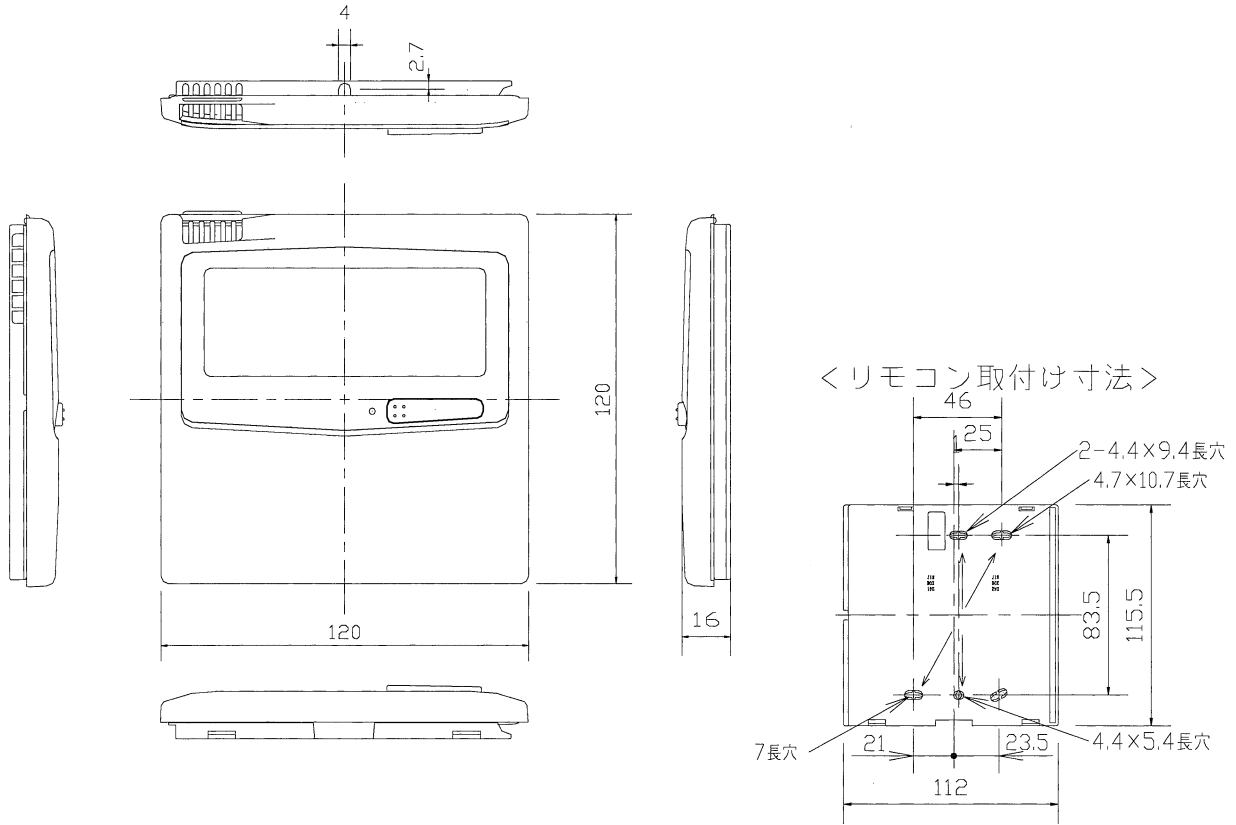
部品名	形名	備考
ワイヤードリモコン	RBC-AMT21	
サブリモコン	RBC-AS21	
吹出フランジ	RBP-50RPB900221	上吹出
	RBP-50RPB900HF221	横吹出
吸込フランジ	RBP-50RPB900311	

19. 別売部品



19-2. ワイヤードリモコン

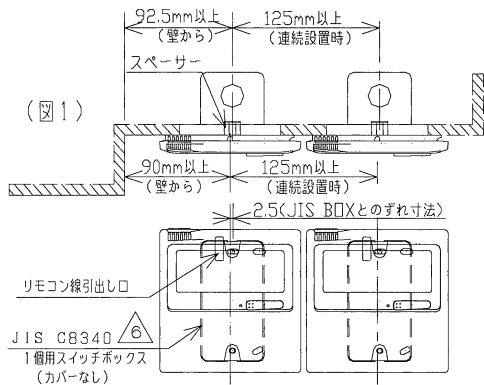
別売部品番号	適用機種
RBC-AMT21	全機種



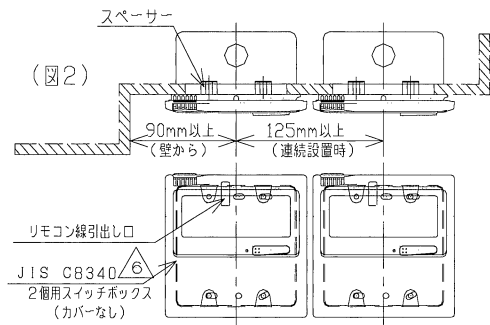
お願い) 配線を埋込まれる場合は、JIS-C8340 1個用スイッチボックス(カバーなし) または、2個用スイッチボックス(カバーなし)を現地手配し、埋込んでください。

連続設置の場合の取付け寸法

* リモコンスイッチを、壁面に連続して取付ける場合は、図1・図2の取付け寸法を守ってください。



* リモコンスイッチを上下に並置して、取付ける場合は、保守の関係上、隙間は25mmを守ってください。

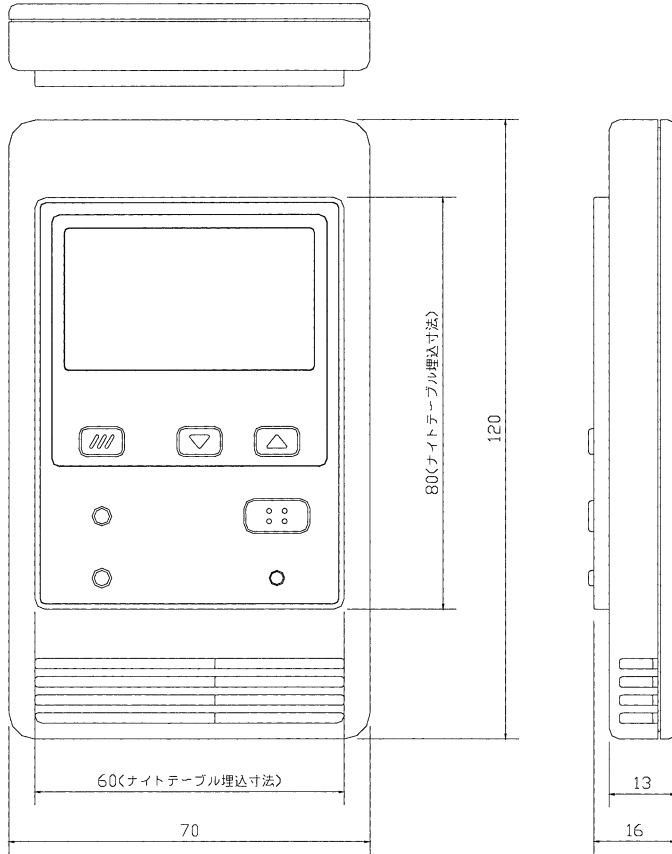


19. 別売部品

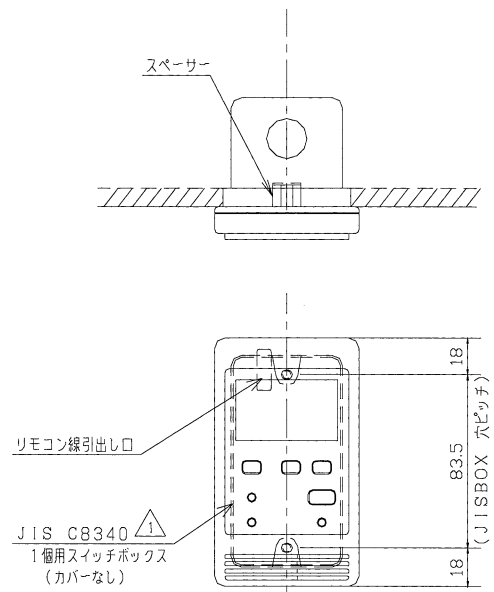


19-3. サブリモコン

別売部品番号	適用機種
RBC-AS21	全機種



* リモコンスイッチを、壁面に取付ける場合



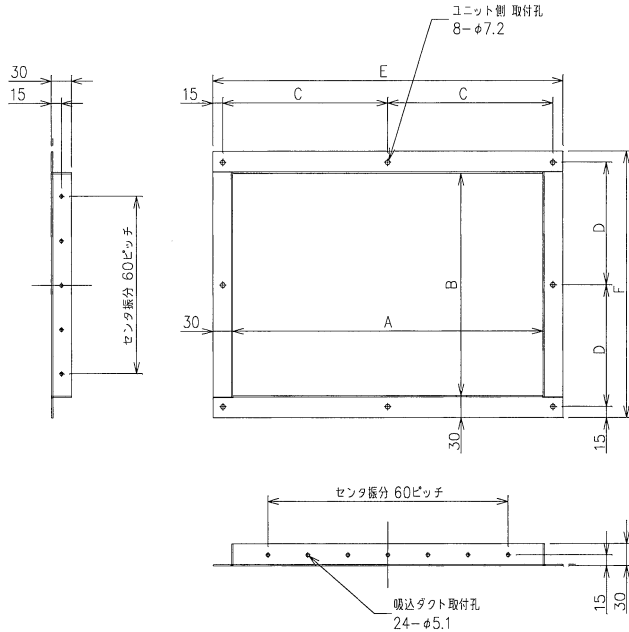
19. 別売部品



19-4. 吹出フランジ

吹出ダクトは送風機の回転方向を考慮し抵抗の少ない施工を行い、キャンバス継手を使用してダクト系の防振を行なってください。

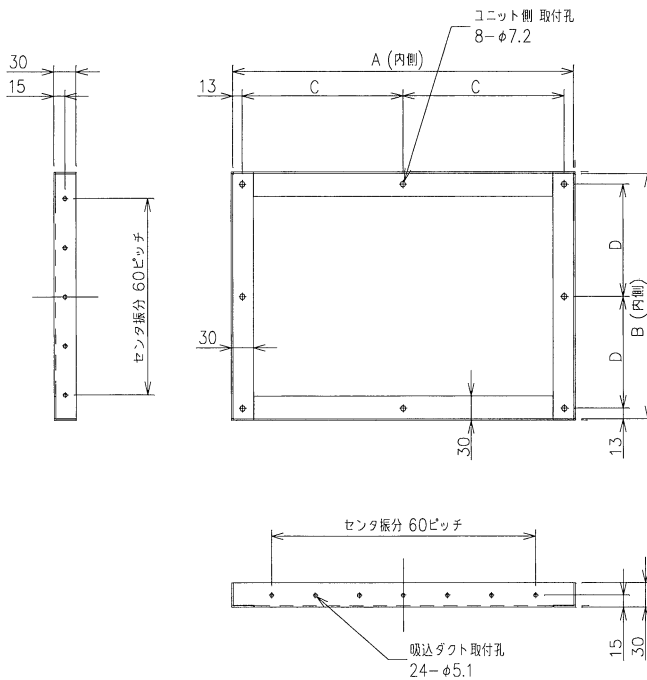
上吹出用



部品番号	寸法					
	A	B	C	D	E	F
RBP-50RPB900221	465	300	247.5	165	526	360

材質	t 2.0mm 30x30 アングル鋼
仕上	ポリエステル粉体塗装
色	シルキーシェード(1Y8.5/0.5)
付属品	シールテープ(合成ゴム発泡体) 取付ボルト(M6 ナイロンワッシャー付 8本)

横吹出用



部品番号	寸法			
	A	B	C	D
RBP-50RPB900HF221	466	300	219.5	137

材質	t 2.0mm 30x30 アングル鋼
仕上	ポリエステル粉体塗装
色	シルキーシェード(1Y8.5/0.5)
付属品	シールテープ(合成ゴム発泡体) 取付ボルト(M6 ナイロンワッシャー付 8本)

注) 取付けの際はシールテープを隙間のないように貼りつけ、ダクト内に雨水が浸入しないように周囲をダクトシーラ等で十分にシールしてください。

19. 別売部品

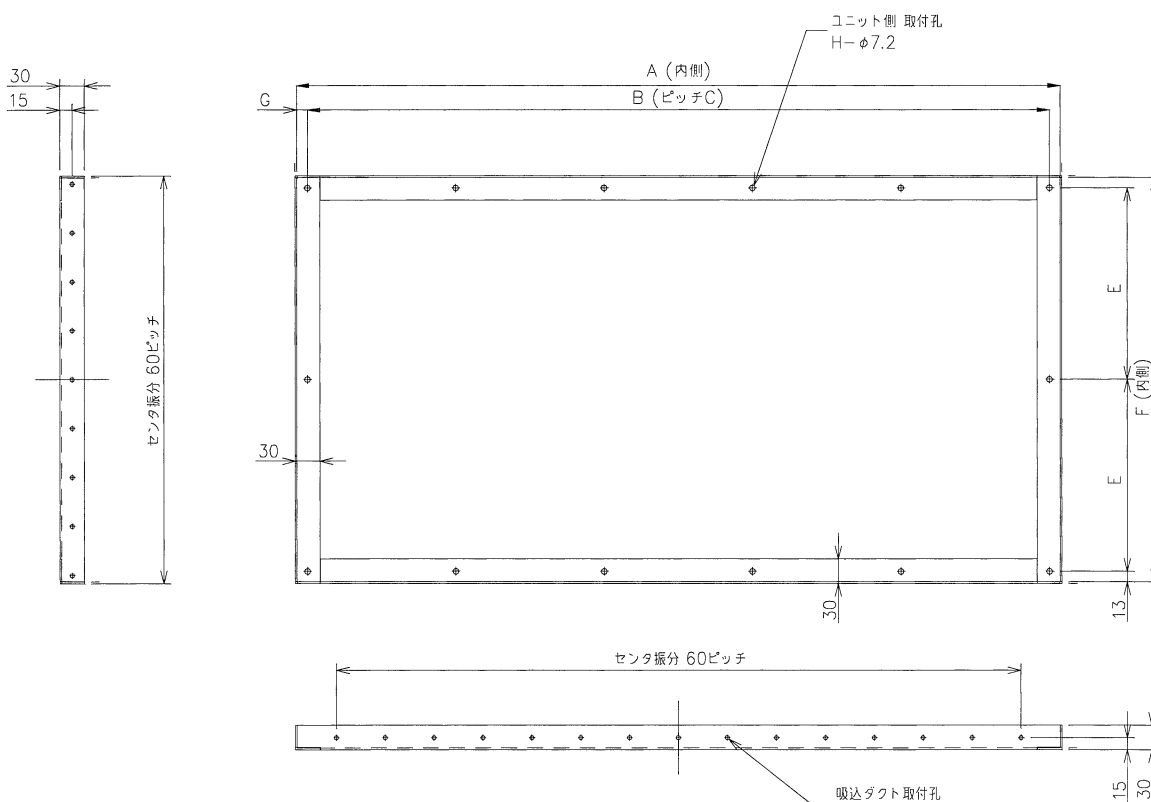


19-5. 吸込フランジ

レターンダクトはキャンバス継手を使用し、ダクト系の防振を行なって施工してください。

部品番号	寸法							
	A	B	C	D	E	F	G	H
RBP-50RPB900311	736	708	177	39	205	436	14	12

材質	t 2.0mm 30x30 アングル鋼
仕上 色	ポリエステル粉体塗装 シルキーシェード(1Y8.5/0.5)
付属品	シールテープ(合成ゴム発泡体) 取付ボルト(M6 ナイロンワッシャー付”H”本)



注) 取付けの際はシールテープを隙間のないように貼りつけ、ダクト内に雨水が浸入しないように周囲をダクトシーラ等で十分にシールしてください。



ユニット電源を試運転前に最低12時間以上入れつづけて、クランクケースヒータによる冷凍機油の加熱を行なってください。

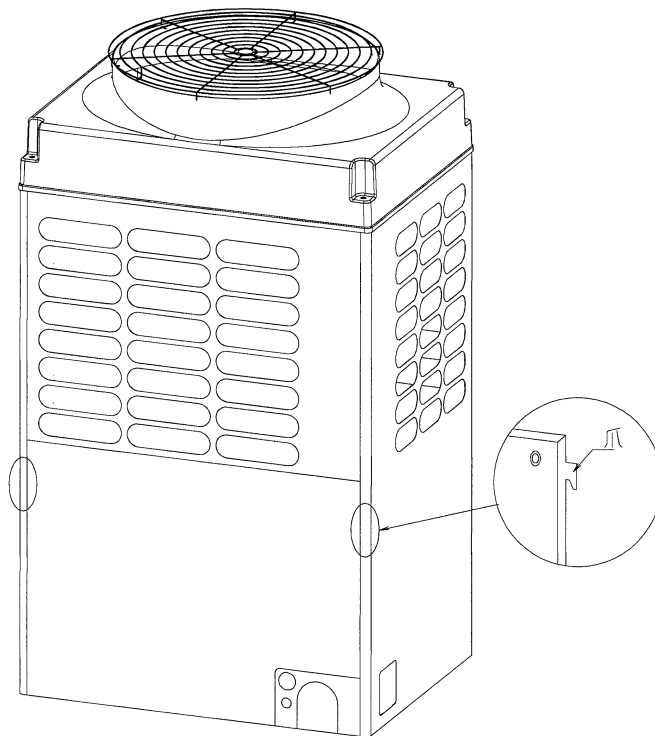
試運転前の確認

運転前には必ず次の項目を点検し、正常な試運転を行なってください。

- ① 電気配線系統の機器の配置および配線接続にゆるみはないか確認してください。
- ② 室内側ドレン配管の施工が適切であることを確認してください。
- ③ 室内側送風機のプーリ芯出し、ベルトの張りが適切であることを確認してください。
- ④ 室内側セクションのパネルがしっかり取付けられていることを確認してください。
- ⑤ ユニット通電が12時間前からであり、圧縮機底部がヒータにて加熱されていることを確認してください。
- ⑥ スイッチボックス内の結線にゆるみがないことを確認してください。

室外機前面パネルのはずし方

- ① 前面パネルを固定しているねじをはずします。(M5、7本)
- ② 前面パネルは下図のように左右1ヶ所ずつ引掛け用の爪がついています。
- ③ 前面パネルを上方へ持ち上げるように取りはずします。



試運転・保守要領



試運転方法

試運転前の点検が完了したら、次の手順で試運転を行なってください。

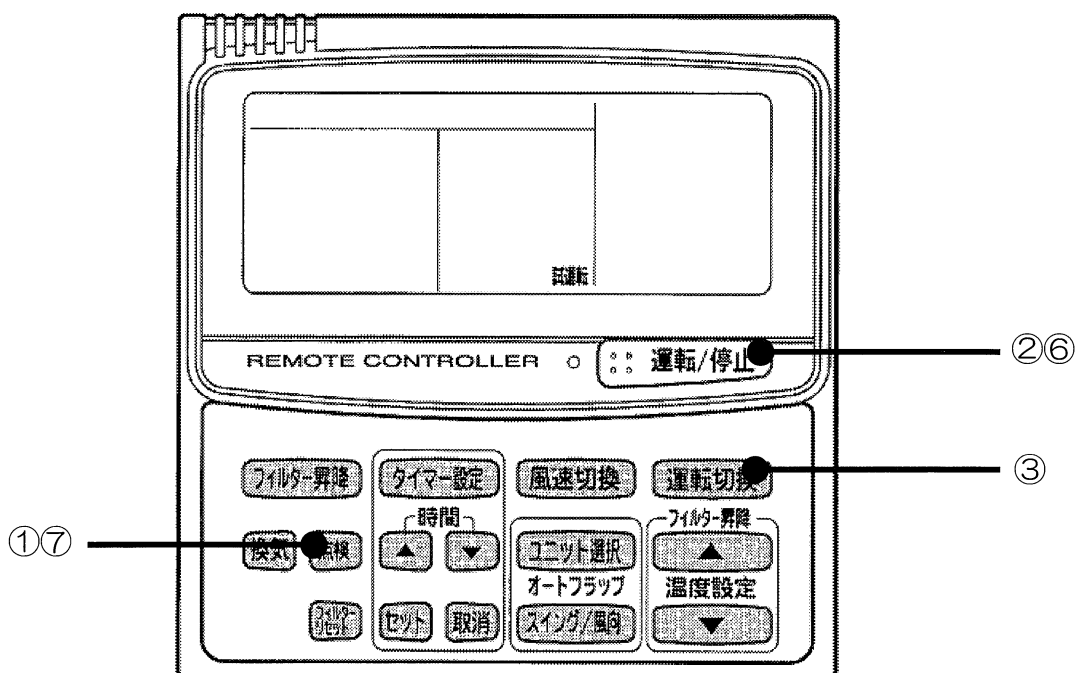
試運転は記録をとりながら進めてください。

室温がサーモOFFするような条件では、以下の手順にて強制運転ができます。

強制運転は、連続運転防止のため、運転を60分経過すると試運転を解除し停止します。

注)強制運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

- ① 「点検」ボタンを4秒以上押しすと、しばらくして表示部に[試運転]と表示されます。
- ② 「運転/停止」ボタンを押します。
- ③ 「運転切換」ボタンで、運転モードを「冷房」か「暖房」にしてください。
 - ・ [冷房]/[暖房]モード以外では使用しないでください。
 - ・ [試運転]中は、温度調節はできません。
 - ・ 異常検出は、通常通り行います。
 - ・ 周波数固定の運転を行います。
- ④ 室内送風機の回転方向を点検してください。逆回転のときはユニット電源を切り、3相のうち2相を入れかえてください。
- ⑤ 送風運転により、ダクト系の送風量を正しく調整してください。
- ⑥ 試運転が終了したら、「運転/停止」ボタンを押して運転を停止してください。
(表示部の表示が手順①と同じになります。)
- ⑦ 運転を停止させたら、「点検」ボタンを押して通常モードに戻ります。点検ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。



試運転・保守要領



コイルの目詰まり

ユニットの空気熱交換器(フィンコイル)に目詰まりがあるかどうか、定期的に点検してください。目詰まりがあったら、ブラシ、真空掃除機、圧縮空気などによりフィンの間のゴミを取り除いてください。またファンガードを取り外して、低水圧の水をユニット内側よりかけてください(室外機側)。この時、ファンモータに水がかからないように注意してください。

室内側ベアリングの交換

15,000hr程度毎を目安に点検し、必要であれば給油してください。但し、使用条件によって給油する頻度は変わります。また、回転音に異常がある場合は、交換してください。給油するグリースは、弊社指定のもの(アルバニアNo.2)を使用し、機種毎に以下の表の補給量を充填してください。指定以外のグリースの給油は行なわないでください。

グリース標準補給量(g)	プーリ側	反プーリ側
RDA-SPE2242HT/EHT	4.4	4.4
RDA-SPE2802HT/EHT	4.4	4.4

Vベルト

ベルトの張りが弱いとスリップしたり磨耗したりします。必要に応じて点検し、張りの調整を行なってください。ベルトの磨耗がひどいときはベルトを交換してください。交換の際は、レッドベルト(高抗張力ベルト)を使用してください。ベルトが新しい場合は初期伸びが発生しますので、約1ヶ月後に再調整が必要です。

エアフィルタ(現地手配品)

レターンダクト系には、エアフィルタを必ず取付けてください。また、フィルタの目詰まりは空気の通過抵抗を増し、風量を減少させますので、定期的に清掃・点検を行なってください。

《フィルタの清掃方法》洗剤水溶液ですすぎ洗いをするか、掃除機により汚れを吸い取ってください。

ドレンパン

ドレンパンにゴミ等がたまり、ドレン配管をつまらせると、レターンダクト側に水があふれることがあります。フィルタの点検と合わせて、ドレンパン上のゴミ等も取り除いてください。

クランクケースヒータ

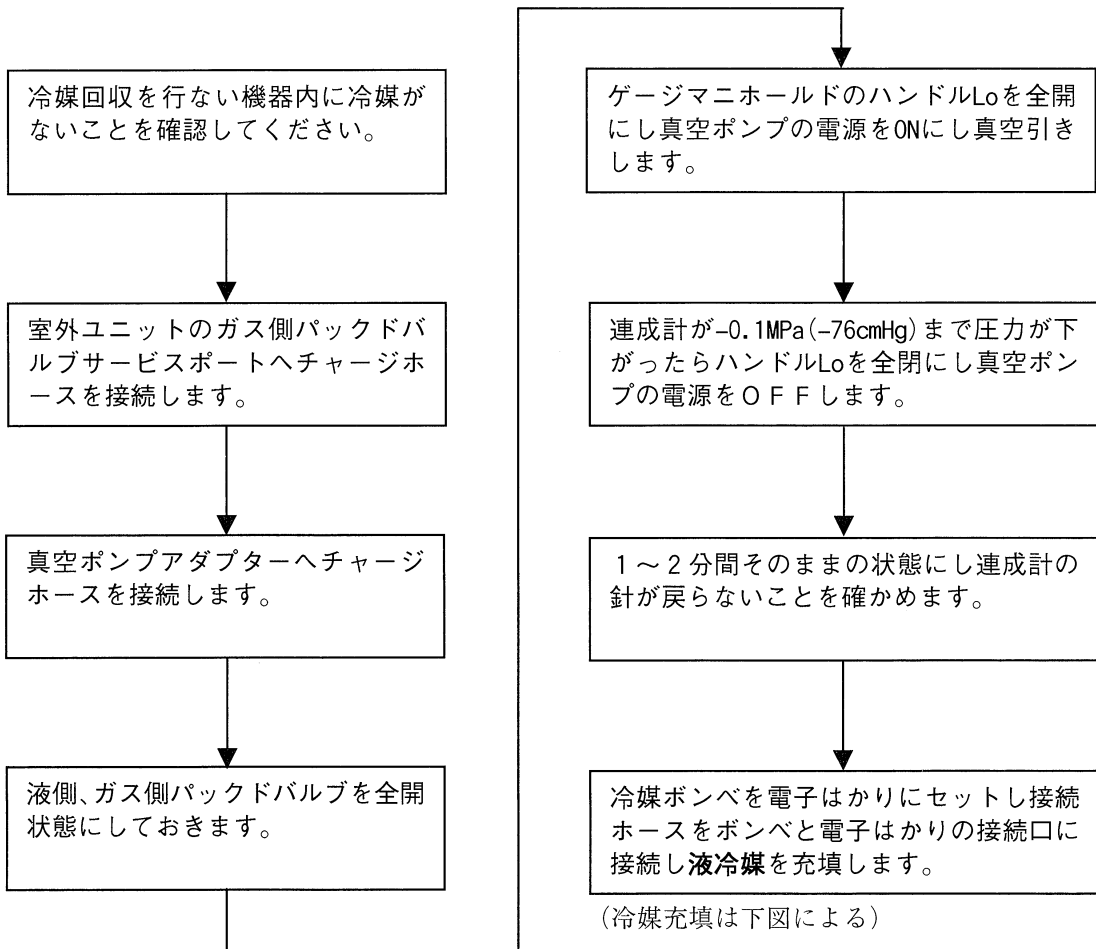
圧縮機停止中は通電されていて、圧縮機底部が温まっていることを確認してください。温かくない場合は、クランクケースヒータを交換してください。

試運転・保守要領

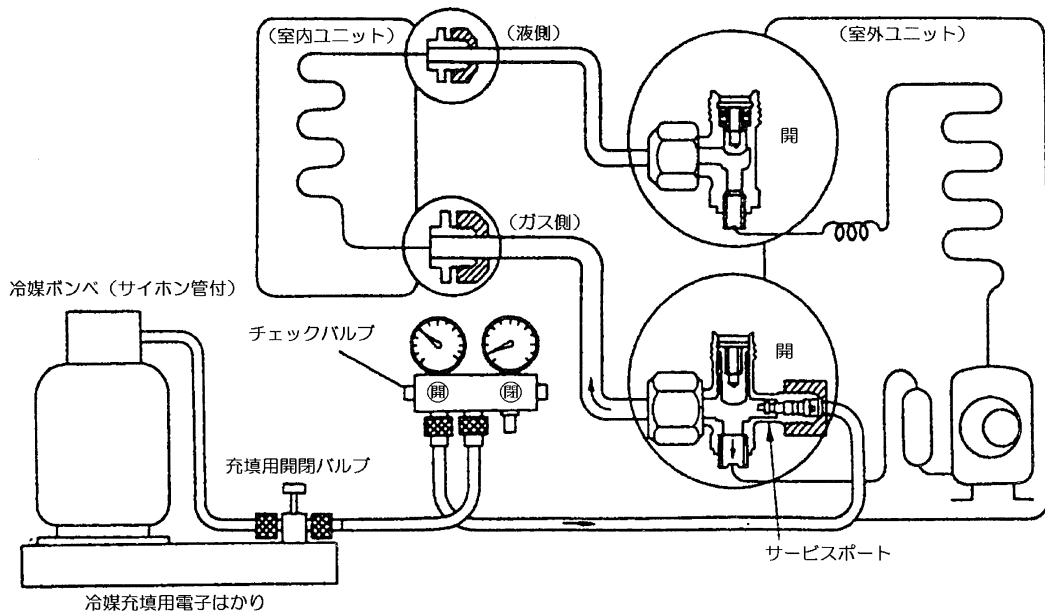


冷媒の再充填について

再充填が必要な場合は、以下の手順により新しい冷媒を正規量封入してください。



- ① 正規量以上の冷媒は絶対入れないでください。
- ② 正規量が入らない場合は冷房運転しながら徐々に入れてください。



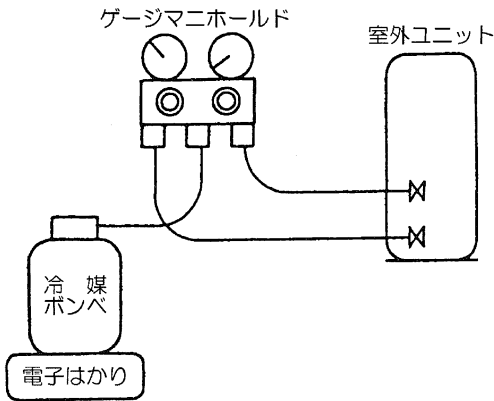
試運転・保守要領



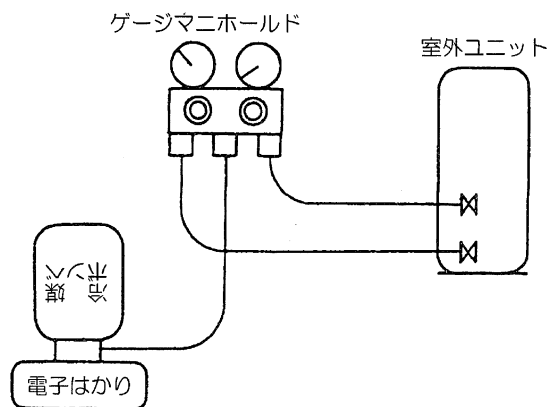
- ① 必ず液充填できるようにセットしてください。
- ② サイホン管付のポンペを使用する場合は、ポンペを逆さにしないで液充填することができます。

R410Aは混合冷媒なので充填に関しては液の状態で行なう必要があります。
 従って、冷媒ポンペから機器に充填する場合、サイホン管付ポンペでない場合はポンペを逆さにして充填します。

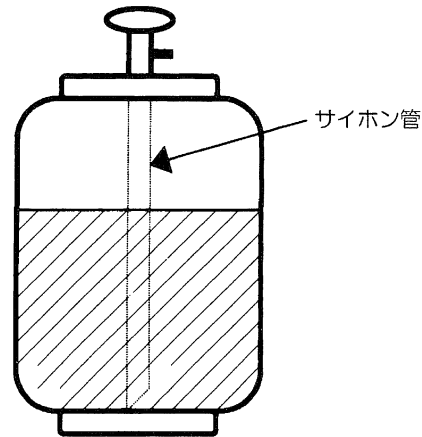
【サイホン管付きの場合】



【サイホン管なしの場合】



HFC混合冷媒のためガスで封入すると充填冷媒の組成が変わり機器の特性が変化します。

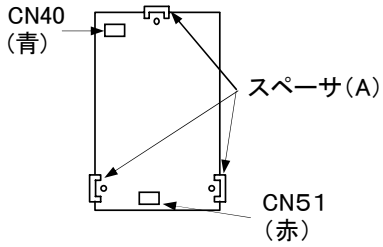
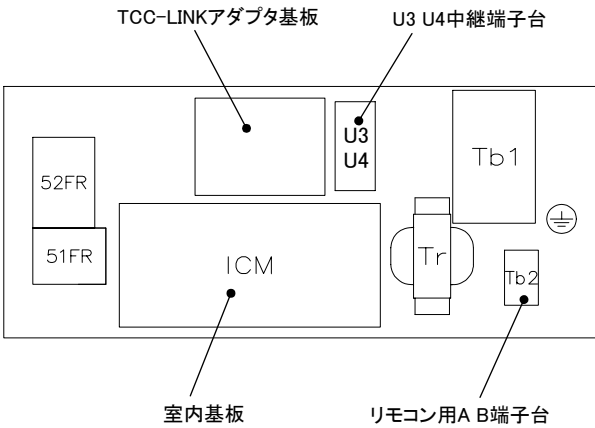




TCC-LINKアダプタ取付説明書

■ シングルエースの場合(RDA-SPE****HT, RDA-SPE****EHTシリーズ)

RDA-SPE2241HT/EHT, 2801HT/EHT, RDA-SPE2242HT/EHT, 2802HT/EHT の場合

No.	手 順	詳 細
1	<p>室内ユニット電気部品箱の図の位置にTCC-LINKアダプタ基板本体を基板取付スペーサ(A)にて取り付けます。</p> <p>〈基板固定用スペーサの取り付け位置〉</p> 	<p>別売TCC-LINKアダプタ TCB-PCNT30TL * 基板スイッチ・アドレス設定については、別売TCC-LINKアダプタの取扱説明書を参照してください。</p> 
2	<p>室内ユニット電気部品箱の図の位置にU3,U4中継端子台を端子台固定用ネジにて取り付けます。</p> <p>●ネジを締めるときケーブルをいためないように注意してください</p> <p>●中継端子台近傍に付属の銘板を貼り付けてください。</p>	<p>●中継ケーブル(A) U3とU4端子台とTCC-LINKアダプタ基板CN40(青)を接続します。配線接続には極性がありません。</p> <p>●中継ケーブル(B) 室内基板CN050(白)とTCC-LINKアダプタ基板CN051(赤)を接続します。</p> <p>●TCC-LINKアダプタ基板を電気部品箱に取付ける場合は、3個の基板取付スペーサ(A)を基板の穴に差し込み取付けます。</p>
3	<p>中継ケーブル(A)をU3,U4中継端子台からTCC-LINKアダプタ基板本体のCN40(青)に配線します。</p> <p>中継ケーブル(B)を室内基板上のCN050(白)からTCC-LINKアダプタ基板本体のCN51(赤)に配線します。</p>	<p>* 中継ケーブル(A)・(B)の配線接続後、ケーブルのはさみ込み等がないように近くの配線に沿わせて結束バンド固定してください。</p>